

山梨県内分布調査報告書

(平成 30 年 1 月～ 12 月)

2 0 1 9 . 3

山 梨 県 教 育 委 員 会

序

本書は、平成30年1月から同年12月までの間に、山梨県教育委員会（実施機関；山梨県埋蔵文化財センター）が文化庁国庫補助金（国宝重要文化財等保存整備費補助金）を受けて実施した「県内遺跡発掘調査等事業」にかかる調査成果をまとめた報告書です。本事業では、12か月間に試掘・確認調査11件、立会調査3件、分布調査1件の合計15件を実施しています。

試掘・確認調査は、新山梨環状道路北部区間建設事業、中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事事業、新山梨環状道路東部区間建設事業、高速自動車国道中部横断自動車道新設工事事業、県庁舎北別館受水槽改修工事事業、統合一級河川事業 古川バイパス河川整備工事事業、富士吉田警察署富士山駅前交番建設機械設備工事事業、北杜警察署上手・朝神駐在所（仮称）建設工事事業、天竜南線リニア増強工事事業（1期）、都市公園舞鶴城公園内屋根付ベンチ設置工事事業、中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事事業（都留市・笛吹市～富士川町）に伴いまして、施工に先立ち埋蔵文化財保存への影響を確認する目的で実施いたしました。

立会調査では、都留興譲館旧弓道場解体工事事業、高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事事業、甲府道路維持工事事業に伴って、専門職員が立ち会いながら、埋蔵文化財への影響がないことを確認しながら進めました。

試掘・確認調査、立会調査ともに、遺構や遺物が発見された場合、適切な保存措置が必要となります。特に中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事事業（都留市・笛吹市～富士川町）は中丸遺跡他14遺跡の範囲内にあり、遺構や遺物が検出されることが予想されたため、調査を実施しました。

本書に収録した調査記録は、今後の埋蔵文化財の保護、とりわけ開発事業との円滑な調整などにおいて有益な情報となると確信しています。さらに、多くの方々の文化財に対する理解と関係諸機関の文化財保護の取り組みへの一助となれば幸いです。

末筆ではありますが、今後とも当センターの埋蔵文化財・史跡の保存活用にかかる諸事業に一層のご理解とご支援をお願いするとともに、本事業においてご協力を賜りました関係機関並びに調査実施に関わられた皆さまのご支援に厚く御礼申し上げます。

2019年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 馬場 博樹

例言

- 1 本報告書は、山梨県教育委員会が文化庁国庫補助金（国宝重要文化財等保存整備費補助金）を受けて実施した「県内遺跡発掘調査等事業」にかかる調査成果を受けて、平成30年1月から同年12月までに山梨県埋蔵文化財センターが実施した県内の試掘・確認調査（以下「試掘調査」という）並びに立会調査、分布調査の結果をまとめた報告書である。
- 2 本報告書は、国・県の道路建設事業、建物等建設事業などの試掘・確認調査結果と立会調査結果、および詳細分布調査を収録している。
- 3 調査結果の報告については、各事業の調査担当者が行い、その報告に基づき宮里学・飯塚剛・高左右裕が編集した。なお、各調査担当者については、本文に明記した。
- 4 出土品及び本報告書の図面・写真・デジタル化したデータの記録類等は、一括して山梨県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 5 試掘調査の作業員（発掘作業員）並びに整理作業員は次のとおりである。（敬称略・順序不同）
発掘作業員：角田三夫、飯室恵子、中込榊、直井光江、箭本公幸、小林英樹
整理作業員：野澤まゆみ
- 6 本試掘・立会調査並びに整理作業について、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。（順不同）
東海旅客鉄道株式会社山梨工事事務所、山梨県土整備部（新環状・西関東道路建設事務所、山梨県中北建設事務所）、甲府市教育委員会、都留市教育委員会、山梨市教育委員会、笛吹市教育委員会、甲州市教育委員会、中央市教育委員会、南アルプス市教育委員会、北杜市教育委員会、地権者、各自治会長など関係地区の皆様

凡例

- 1 「位置図」は原則国土地理院1/25,000を使用した。
- 2 ただし、調査範囲が大きい場合は出典を明示し、1の限りではない。
- 3 図版縮尺については、図版内のスケールにより統一していない。
- 4 実測図及び写真は主要なものに限った。

本文目次

序 例言・凡例 目次

県内分布調査全体事業位置図	1
I 試掘・確認調査	
1 新山梨環状道路北部区間建設事業《包蔵地外》	2
2 中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事事業（高下地区）《包蔵地外》	4
3 新山梨環状道路東部区間建設事業《包蔵地外》	6
4 高速自動車国道中部横断自動車道新設工事事業《包蔵地外》	8
5 県庁舎北別館受水槽改修工事事業《甲府城跡》	10
6 統合一級河川事業 古川バイパス河川整備工事事業《包蔵地外》	12
7 富士吉田警察署富士山駅前交番建設機械設備工事事業《包蔵地外》	14
8 北杜警察署上手・朝神駐在所（仮称）建設工事事業《包蔵地外》	16
9 天竜南線リニア増強工事事業（1期）《石橋条里制遺構》	18
10 都市公園舞鶴城公園内屋根付ベンチ設置工事事業《県指定史跡甲府城跡》	20
11 中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事事業（都留市・笛吹市～富士川町）《包蔵地・外》	21
II 立会調査	
12 都留興讓館旧弓道場解体工事事業《三ノ側遺跡》	30
13 高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事事業《狐原遺跡》	32
14 甲府道路維持工事事業《甲府城下町遺跡》	33
III 分布調査	
15 国営施設機能保全事業に先立つ詳細分布調査事業《殿林遺跡・安道寺遺跡》	35

平成 30 年 県内分布調査全体事業位置図



- 1 新山梨環状道路北部区間建設事業《包蔵地外》
- 2 中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事事業（高下地区）《包蔵地外》
- 3 新山梨環状道路東部区間建設事業《包蔵地外》
- 4 高速自動車国道中部横断自動車道新設工事事業《包蔵地外》
- 5 県庁舎北別館受水槽改修工事事業《甲府城跡》
- 6 統合一級河川事業 古川バイパス河川整備工事事業《包蔵地外》
- 7 富士吉田警察署富士山駅前交番建設機械設備工事事業《包蔵地外》
- 8 北杜警察署上手・朝神駐在所（仮称）建設工事事業《包蔵地外》
- 9 天竜南線リニア増強工事事業（1期）《石橋条里制遺構》
- 10 都市公園舞鶴城公園内屋根付ベンチ設置工事事業《県指定史跡甲府城跡》
- 11 中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事事業（都留市・笛吹市～富士川町）《包蔵地・外》
- 12 都留興譲館旧弓道場解体工事事業《三ノ側遺跡》
- 13 高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事事業《狐原遺跡》
- 14 甲府道路維持工事事業《甲府城下町遺跡》
- 15 国営施設機能保全事業に先立つ詳細分布調査事業《殿林遺跡・安道寺遺跡》

1 新山梨環状道路北部区間建設事業 試掘《包蔵地外》

所在地	甲斐市大久保字村東 1135-1 から 同市大久保字上ノ段 988-4	調査期間	平成 30 年 1 月 22 日（月）～2 月 2 日（金）
担当者	笠原みゆき・井上彰雄・長田隆志	調査面積	約 243.25 m ² （施行対象面積 3,166 m ² ）

調査経緯

甲斐市大久保字村東 1135-1 から同市大久保字上ノ段 988-4 地内の試掘調査は、国土交通省の管轄事業である新山梨環状道路北部区間建設事業に先立ち実施したものである。

当該事業では、用地内のキクガシラコウモリの営巣地を壊すことから、新たな営巣地形成にむけた環境を整備する目的で、ボックスカルバートを設置（通称、コウモリ BOX）する必要性が生じた。

調査の実施にあたっては、平成 29 年 10 月 31 日に、事業者である国土交通省甲府河川国道建設事務所、教育庁学術文化財課、県埋蔵文化財センターの三者で協議をおこなった。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、隣接する周辺の台地上には遺跡が点在することから試掘調査を行うこととし、12 月 15 日には現地で調査範囲の確認や注意事項等の事前確認を行った。

試掘調査は、平成 30 年 1 月 15 日付教学文第 2749 号で学術文化財課から依頼を受け、平成 30 年 1 月 22 日～2 月 2 日に実施した。

事業内容と結果

平成 30 年 1 月 22 日より作業員 2 名を雇用し、重機による掘削及び人力による精査作業と記録作業を行った。

調査は、調査区西側の一段高い台地がせり出したような地形の水田に 1 号トレンチおよび 2 号トレンチを設定した。

遺構は確認されていないが、壁面を精査したところ、縄文時代後期の土器片が 1 号試掘トレンチの GL-1.19m 地点、2 号試掘トレンチの GL-0.72～0.78m 地点から検出された。

縄文時代後期には、台地の斜面に集落を作る例もあるため、確実に遺構の有無を確認する目的で、3～8 号試掘トレンチを設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。

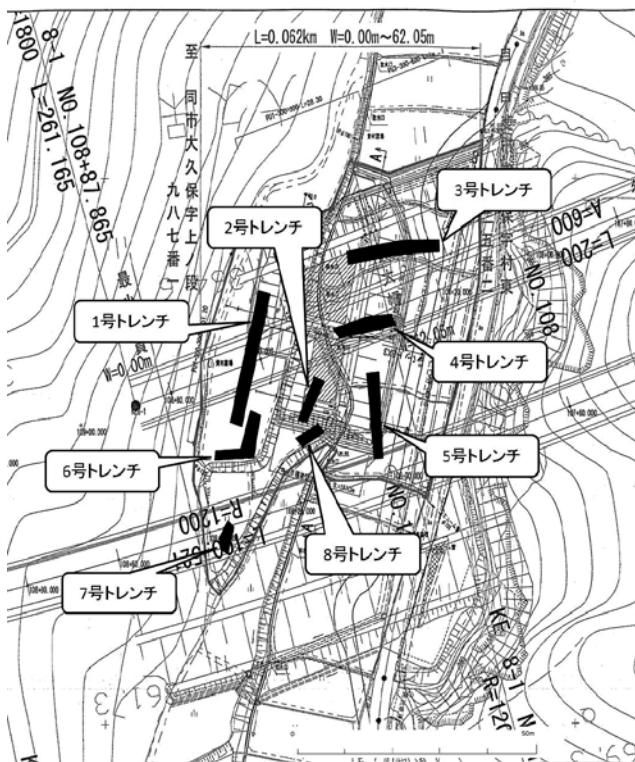
5 号試掘トレンチの GL-0.82m 地点からは、遺構や遺物は確認されていないが、水田の床土部分に突き刺さるような形で木杭片が確認された。

調査の結果、1・2 号トレンチからは、近世以降の水田が 2 面確認された。2 面目の水田の床土直下から縄文時代後期の土器片が出土した。

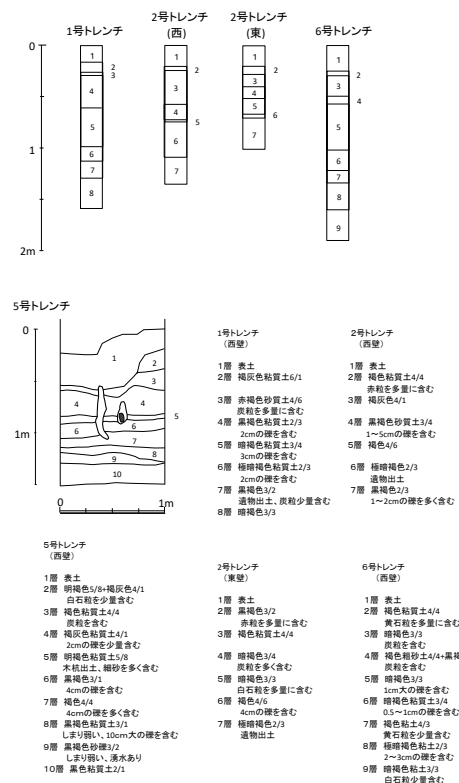
しかし、台地上には、上ノ段 C 遺跡などの縄文土器の散布地があることや検出状況から、今回発見した土器は流れ込みによるものと判断し、山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項第 3 条に基づき、工事を着手しても差し支えないとの報告を提出した。



第1図 位置図



第2図 トレンチ配置図



第3図 土層柱状図



調査地点遠景



遺構・遺物確認作業の状況

2 中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事業（高下地区） 試掘《包蔵地外》

所在地	自) 南巨摩郡富士川町高下字久保田 至) 同町高下字中屋	調査期間	平成 30 年 2 月 5 日 (月) ~ 20 日 (火)
担当者	井上彰雄・塩谷風季・長田隆志	調査面積	約 191.3 m ² (施行対象面積 3,826.17 m ²)

調査経緯

南巨摩郡富士川町高下字久保田から同字中屋地区の試掘調査は、中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設事業に先立ち実施したものである。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、事業面積が広大であり、周辺地域の調査事例がないため試掘調査を実施した。また、地形的に遺跡が形成され易い小規模な谷状平野であることや、当該地を含む仙洞田地区が中・近世集落として存在していたことが判明していたこともある。

試掘調査の実施にあたり、平成 29 年 11 月 22 日に事業者である東海旅客鉄道株式会社（JR 東海）、教育庁学術文化財課、県埋蔵文化財センターの三者で協議を行った。平成 30 年 1 月 11 日の現地協議では、広い対象地を踏査し、課題について協議した。

試掘調査の状況と結果

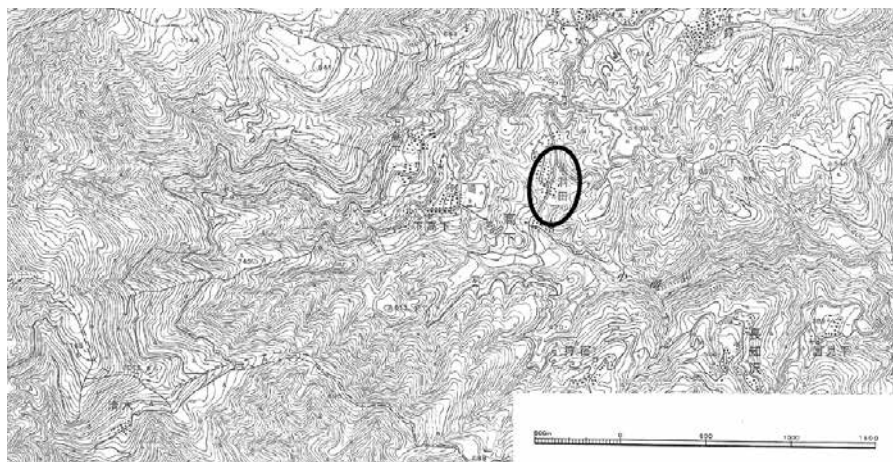
調査の結果、調査区に入れた試掘トレンチのほとんどは、砂礫層が厚く堆積している状況が観察された。その中で、調査区西側が緩斜面地に設定した 12 号トレンチ（長さ 7.9m×幅 1.1～1.4m×深さ 2.55m）から中世（鎌倉時代）の陶器が 1 点出土した。しかし、遺構・遺物が確認されなかったことから、山からの流れ込みと判断した。

9 号トレンチ（長さ 9.8m×幅 2.4～2.6m×深さ 1.31m）からは、現在の水田より下層部分で、畦畔が確認された。土層等の確認をしたが、他の遺構・遺物は確認されず、時期不詳の水田ではあるが、層位的に近代に属すると思われる。

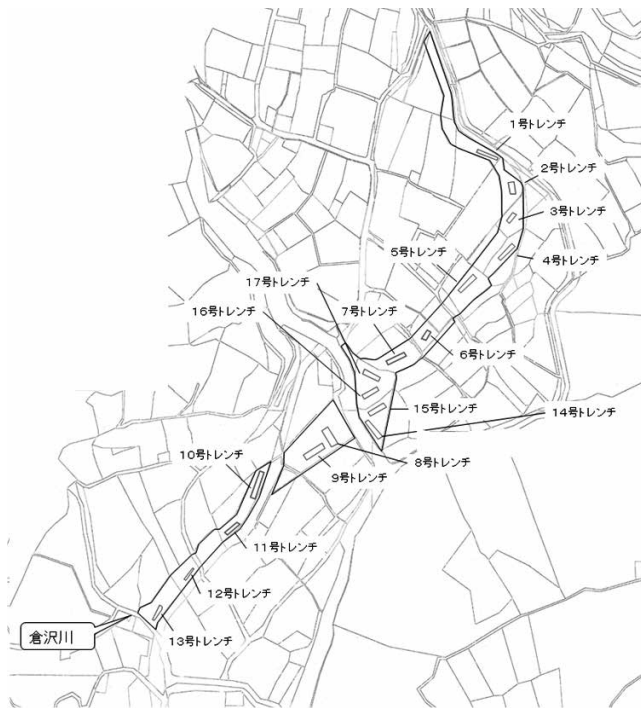
15 号トレンチ（長さ 8.3m×幅 1.9～2.5m×深さ 2.5m）からは、グライ化した土の中から 2 本の木材が水平に重なった状態で出土した。人工物なのか自然物なのかを確認し、加工痕等は確認されなかったため、自然物と評価した。

以上の結果から、明確な遺構、遺物が確認されなかったため、当該地は工事を着手しても差し支えないと判断し、報告した。

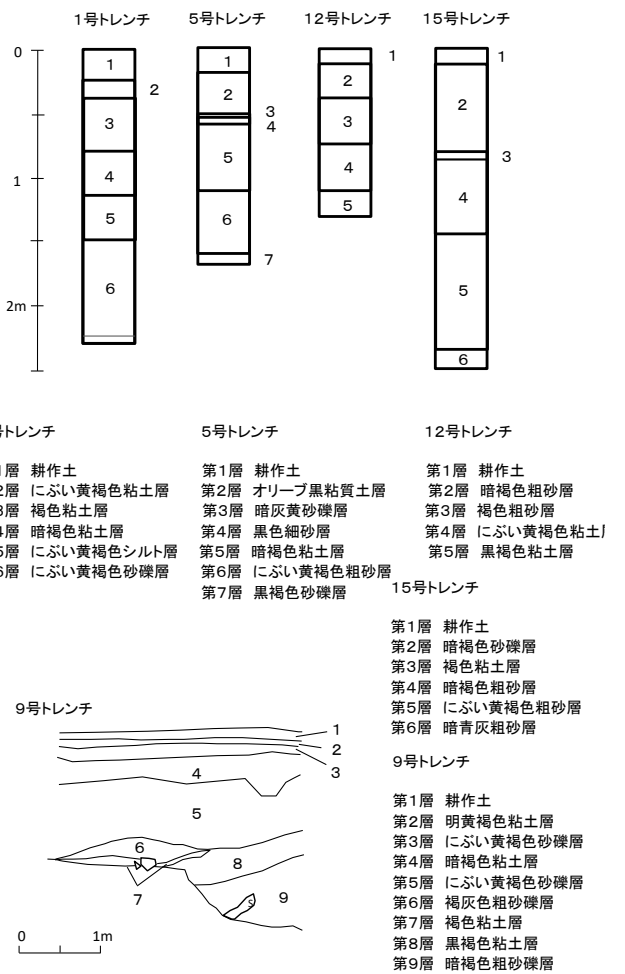
なお、今後についても、工事範囲が広大であり、埋蔵文化財包蔵地である仙洞田氏屋敷や下高下遺跡が存在するため、開発に際しては事前協議が必要である。



第 1 図 位置図



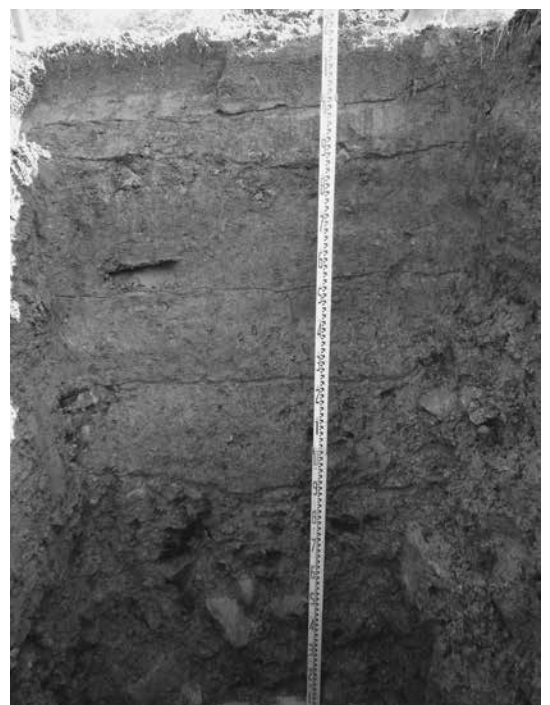
第2図 トレンチ配置図



第3図 土層柱状図



調査地点遠景



1号トレンチ

3 新山梨環状道路東部区間建設事業 試掘《包蔵地外》

所在地	山梨県甲府市小曲町地内	調査期間	平成30年3月2日(金)～27日(火)
担当者	井上彰雄・塩谷風季・長田隆志	調査面積	約1,632.52㎡ (施行対象面積 約29,654.51㎡)

調査経緯

甲府市小曲町地内の試掘調査は、新山梨環状道路東部区間建設事業に先立ち実施したものである。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、事業面積が広大であることと、周辺地域の調査事例が少ないことから試掘調査を実施することとなった。

前年の平成29年3月14日から24日には、用地取得が完了した区画において試掘調査をおこなっており、本年は、未調査の区画を実施することとなった。

本年の当初には、県土整備部、教育庁学術文化財課、県埋蔵文化財センターとの現地協議を実施し、地域の営農状況に合わせ9月下旬以降に試掘調査を実施する計画となった。その後、試掘調査を実施する環境に整うまで事業者側の調整に時間を費やし、3月に試掘調査を実施した。

試掘調査にあたっては、事業面積が広大であり、調査期間も約一か月かかることから、現地にプレハブ事務所を設置した。また、直前の協議で、新たな水路工事や試掘調査地点の変更の要望もあり、あらかじめ試掘トレンチの位置を現地で示し、事業者と埋蔵文化財センターの双方で確認をおこなった。

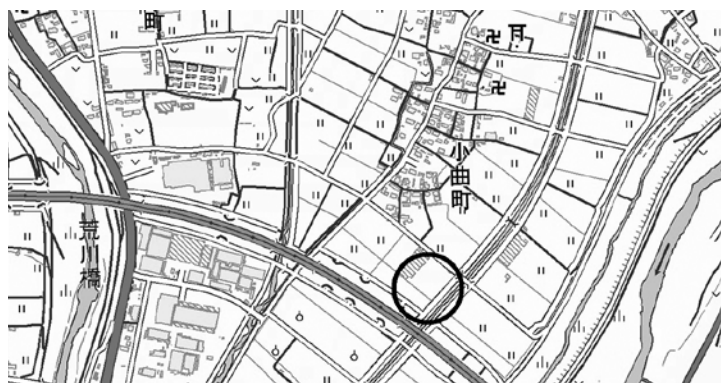
事業内容と結果

前年の試掘調査では、グライ化した黒褐色粘土層から畦畔や足跡が確認されており、近世の陶磁器片が出土している。

この、安定した堆積土層である黒褐色粘土層は、中世以前の水田遺構の可能性もあると考えられたことから、黒褐色粘土層の下層についても、時代的に把握できるよう層位に注意しながら遺構、遺物の確認をおこなった。調査の結果、耕作土の下層は攪乱であったり盛土が厚く堆積していた。

調査区南側よりの調査地点では、GL-0.8mで出水が発生した。排水作業を同時に行いながら、8～12・14号試掘トレンチからは足跡を確認した。足跡は、前年の試掘調査で畦畔や足跡を確認している黒褐色粘土層の直上のシルト層で確認した。遺物は確認されなかった。このことから時期差は不明であるが、黒褐色粘土層とその直上のシルト層の2層にわたり足跡の痕跡が確認されたことになる。11号試掘トレンチの東壁面では、土坑の可能性が考えられる断面を確認したが、遺物を伴わず時期不明のため、遺構とは判断しなかった。

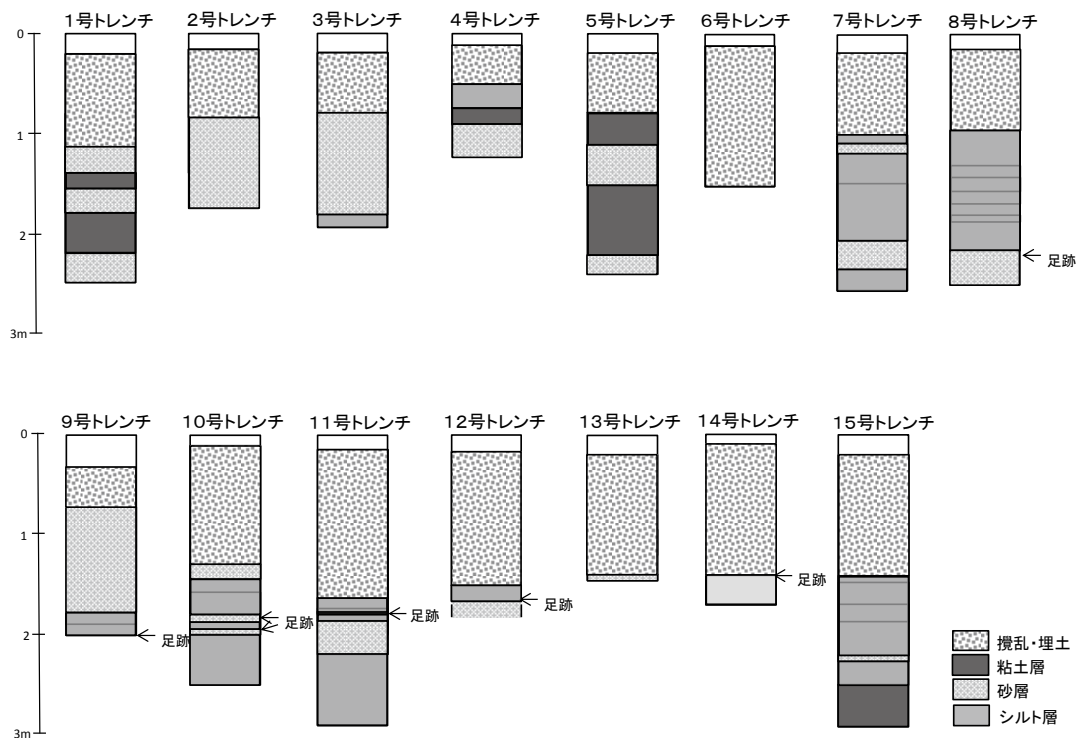
今回の試掘調査においては、重機による深掘りをGL-2.9～3.4mまで実施した。結果、近世以前の遺構、遺物は検出されなかったため、工事に着手しても差し支えないとの報告をした。



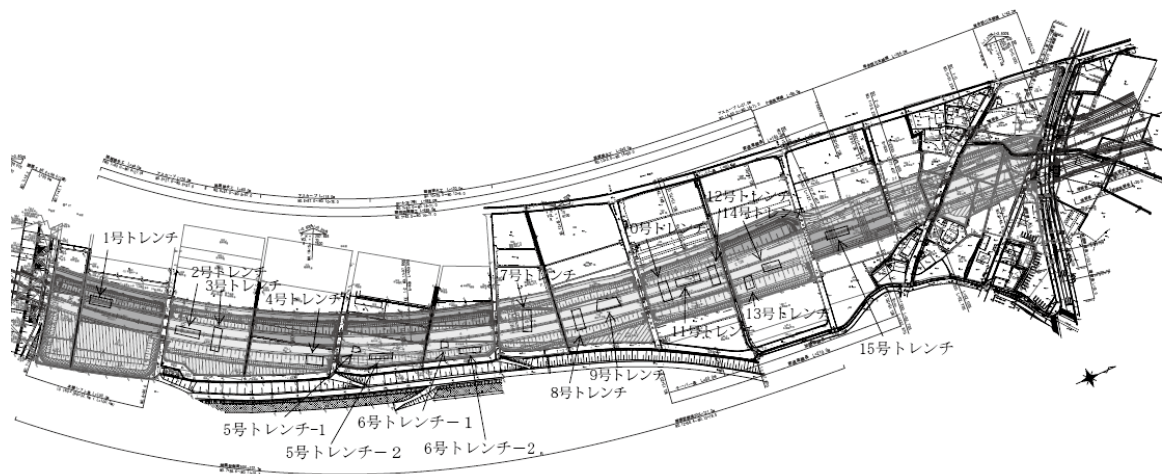
第1図 位置図



第2図 調査地点詳細図



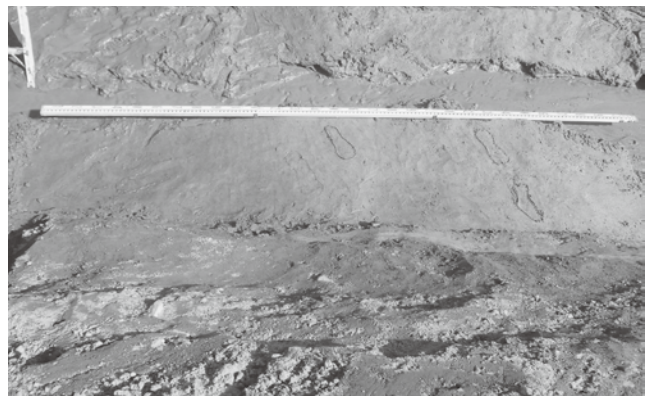
第3図 土層柱状図



第4図 トレンチ配置図



遺構・遺物確認と土層観察



足跡検出状況

4 高速自動車国道中部横断自動車道新設工事業 試掘《包蔵地外》

所在地	山梨県南巨摩郡南部町富士字矢島地内	調査期間	平成30年5月8日(火)～5月10日(木)、17日(木)
担当者	宮里学・飯塚剛・熊谷晋祐・高左右裕	調査面積	約83㎡(調査対象面積1,533.35㎡)

調査経緯

南巨摩郡南部町富士字矢島地内の試掘調査は、高速自動車国道中部横断自動車道新設工事業に先立ち実施したものである。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、当該事業に伴う周辺の試掘調査については随時対応しており、今回の調査対象地の隣接地点も平成23～25、27年度に試掘調査を実施している。

本年は、暫定路線となる一部の範囲を中日本高速道路株式会社が取得したため、広域開発に伴う試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、平成30年4月17日付教学文第26号で学術文化財課から試掘依頼を受け、平成30年5月8日～5月10日、17日に実施した。

事業内容と結果

調査地点は、富士川によって形成された谷底平野にあり、西側に河岸段丘が位置し、東側に富士川が流れる。富士川は北方向へ流れ富士川に合流する。そのため現地地形は緩やかに南から北方向へ傾斜している。

調査にあたり、合計9本の試掘トレンチを設定した。全てのトレンチにおいて、地表下約60cm以下より150cmほどの厚さで砂礫層が堆積していた。粒径の小さい礫層や巨大な礫を含む礫層などが互層となっており、7号トレンチでは下流へ向かうラミナが発達している。砂礫より上層は4号トレンチ以外において橙色～橙褐色土層が確認されるが、これは現代の水田層であると想定される。

3・4・6～9号トレンチにおいて、厚く堆積する砂礫層の下層からは、褐～黄褐色のシルト層が地表下2.0mを前後する位置で確認された。黄褐色シルト層の下層はグライ化した青灰色シルト層が、上層には褐色の砂層が場所により認められた。このシルト層は、管状斑鉄を多く含んでおり、水田としての利用も想定し得るが、7号トレンチの東端部で層厚が薄くなっており、自然の後背沼地における堆積と判断した。

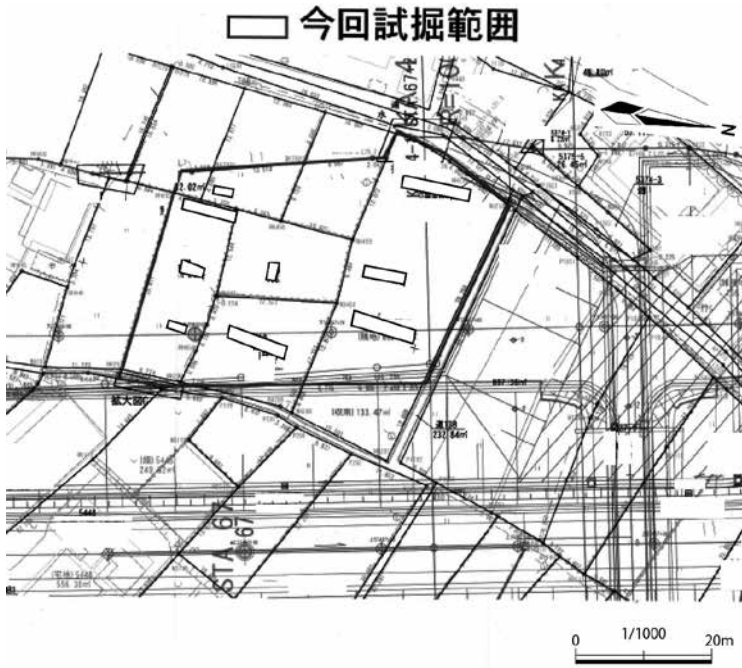
今回の試掘トレンチからは、遺構は検出されず、遺物の出土も皆無であった。

試掘調査地点は包蔵地外で、これまでの試掘においても本調査は不要であるという結果となっているが、調査地点付近には中世末からの伝統がある佐野十右衛門屋敷があり、なおも関連遺跡が存在している可能性はあるため、遺構の展開のあり方や分布範囲を念頭に置く必要がある。

以上により、当該調査地点において、工事を進めても差し支えないが、今後開発が予定される隣接する南側の未調査地点についても、同様に試掘調査等による埋蔵文化財の有無の確認が必要である。



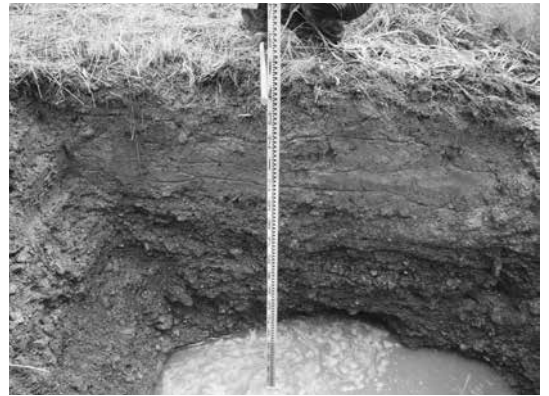
第1図 位置図



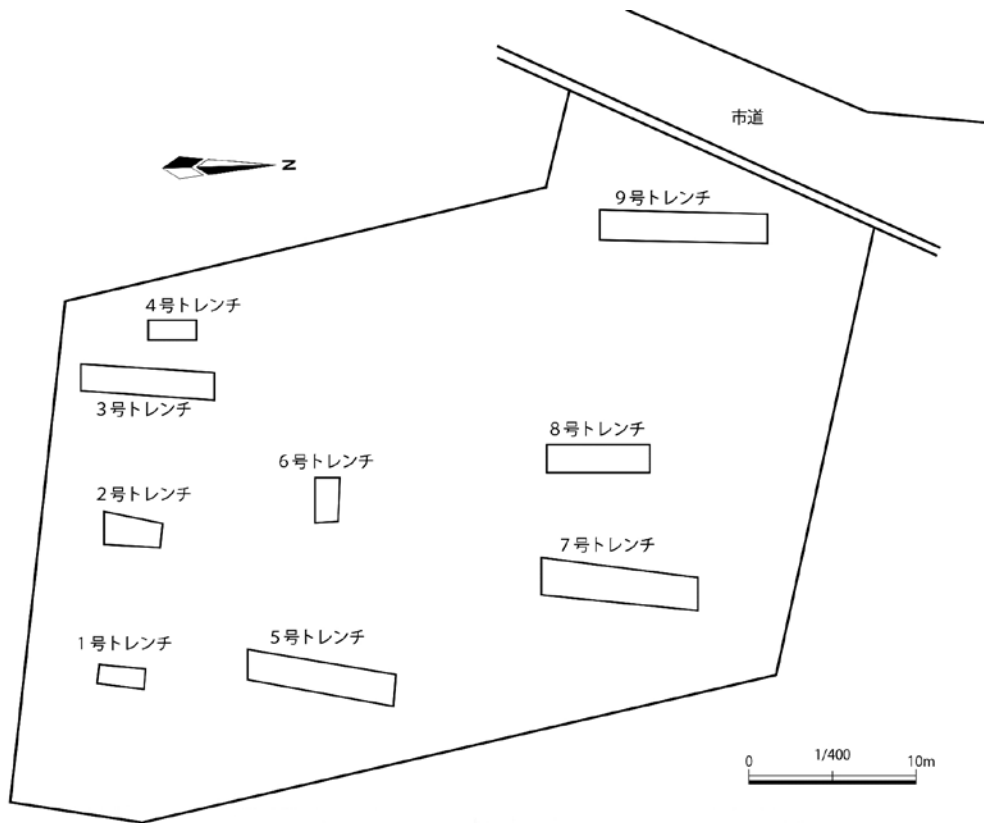
第2図 調査地点詳細図



調査地点遠景



6号トレンチ



トレンチ配置図

5 県庁舎北別館受水槽改修工事業 試掘《甲府城跡》

所在地	山梨県甲府市丸の内一丁目6番	調査期間	平成30年6月4日(月)
担当者	宮里学・飯塚剛・高左右裕	調査面積	約16㎡(施行対象面積32.5㎡)

調査経緯

甲府市丸の内一丁目6番地内の試掘調査は、県庁舎北別館受水槽改修工事業に先立ち実施したものである。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「甲府城跡」に位置している。

平成30年4月6日、事業者である県土整備部管財課、教育庁学術文化財課、県埋蔵文化財センターの三者で現地協議をおこない、受水槽の施工計画をもとに、試掘調査の方法や注意点等を確認した。また、甲府城跡に関わる遺構が検出された場合であっても、遺構保護の措置のうえ施工することを確認した。

試掘調査は、学術文化財課から試掘依頼を受け、平成30年6月4日に実施した。

事業内容と結果

試掘調査の地点は、山梨県庁北別館の東側である。

当該地は、甲府城の屋形曲輪にあたる。試掘トレンチは、上記のとおり遺構保護が前提であるため、5.5m×5.5mの施工範囲全体を掘り下げ、その範囲内に長さ3m、幅1mの試掘トレンチを設定した。

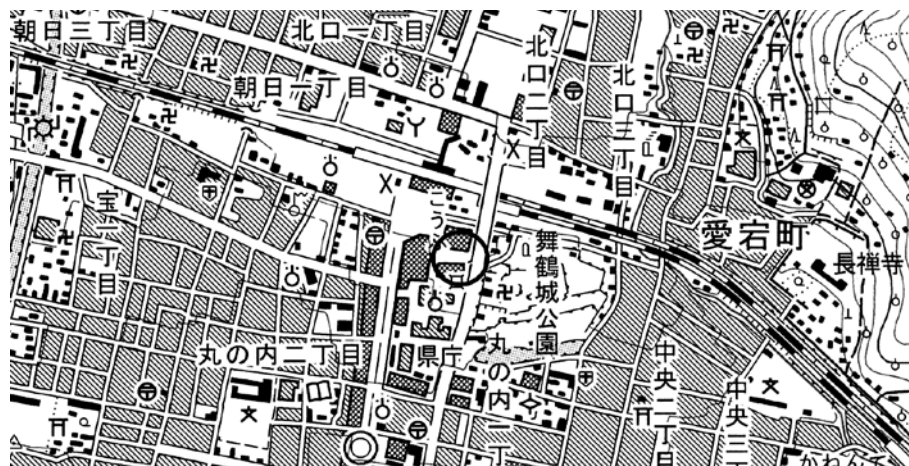
試掘トレンチは、深さ1.6mの地山まで掘削した。その理由は、過去の調査事例から当該地周辺では平安時代の土坑や土器が検出されていることもあるため、甲府城に関連する遺構を避けて地山まで確認した。

試掘調査の結果、トレンチ東壁では、2段積みみの石組による水路遺構を検出した。この遺構は、長さ約0.4mほどの直方体の安山岩を材料とし、東西方向に延びる。遺構覆土からは、牛乳瓶片等が見つかるため、明治22年以降に廃絶したと位置づけられるが、甲府城の遺構が近代以降も継続して使用されている事実もあることから、遺構構築時期と廃絶時期は安易に判断できない。その他、近代の溝状遺構やコンクリート製施設の一部を確認した。

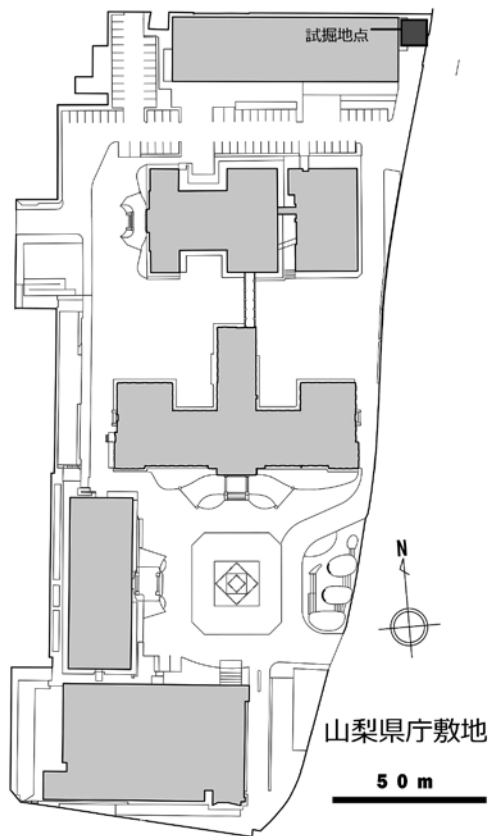
上記のとおり水路遺構は部分的な調査であるため、構築年代を明確にできなかった。一方、調査期間中に三者で現地協議をおこない、施工範囲には水路遺構が含まれないことが改めて確認されたため、遺構保護の措置をおこない埋め戻す判断をした。

調査結果としては、明確に甲府城と関わりを持つ遺構、遺物の検出はなかったため、施工を実施しても影響はないとの報告をした。

なお、過去の調査履歴から県庁構内と周辺地は、遺構の残存状況が良好であることが判明しているため、引き続き開発工事等では十分な事前の協議と、埋設保護した遺構を含めた注意が必要である。



第1図 位置図



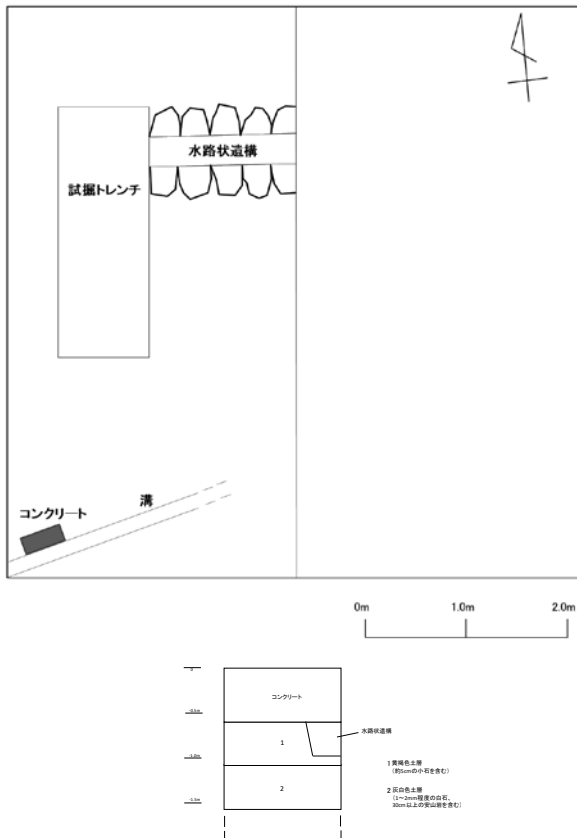
第2図 調査地点詳細図



調査地点遠景



掘削状況



第3図 トレンチ配置図および土層柱状図



土層状況



水路遺構検出状況

6 統合一級河川事業 古川バイパス河川整備工事業 試掘《包蔵地外》

所在地	山梨県韮崎市大草町若尾地区内	調査期間	平成30年6月13日(水)～6月15日(金)、 12月19日(水)～21日(金)
担当者	宮里学・飯塚剛・高左右裕	調査面積	約109㎡(施行対象面積約2,220㎡)

調査経緯

韮崎市大草町若尾地内の試掘調査は、統合一級河川事業古川バイパス河川整備事業に先立ち実施したものである。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、事業面積が広大であることと、周辺地域の調査事例が少ないことから試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は前年の平成28年11月から12月に、概ね東側三分の一の範囲まで実施している。

本年は、平成30年4月23日に、事業者である中北建設事務所峡北支所、教育庁学術文化財課、県埋蔵文化財センターと現地協議を行い、整備事業の範囲や周辺の営農地に与える影響等を事前に確認した。

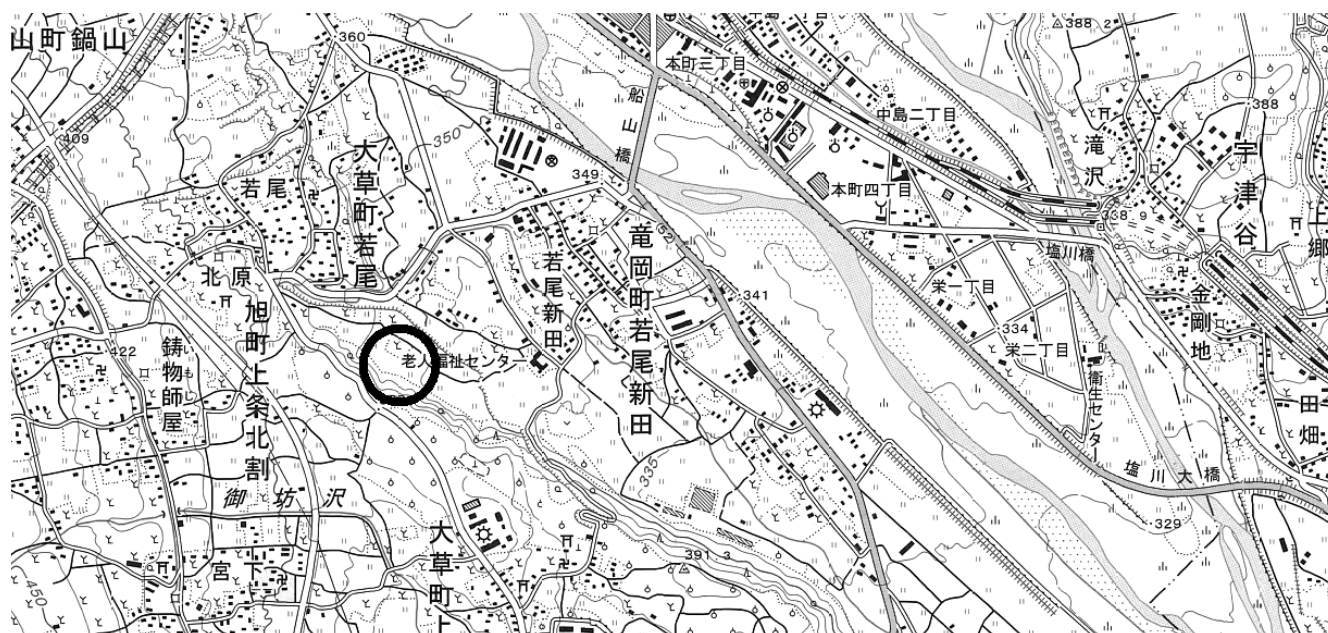
その結果、昨年度まで調査が完了している地点を起点として、残りの三分の二を早期に実施し(起点側)、秋以降(県道613号側)に分けて実施することとなった。

事業内容と結果

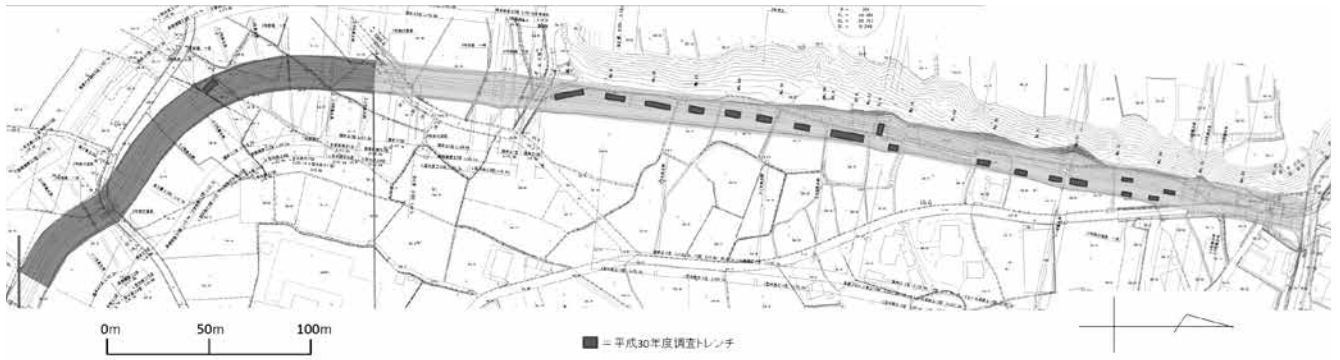
当該地は、台地の北東側崖下に位置しており、古川が南下して流れている。台地上には久保屋敷遺跡が存在し、その東側は遺跡の分布が確認されていないが、平坦な地形が続き、歴史的に土地利用がなされていた可能性が考えられる点を調査視点として試掘調査をおこなった。

試掘トレンチは、設計書に基づき河川幅と営農状況等の周辺環境を勘案し、19カ所設定した。試掘トレンチの規模は、長さ7m×2m(1号、6～8号、10～19号)、長さ3m×3m(2～5号、9号)とし、河川堆積物や出水が激しいことが予測されたため、重機を用いて実施した。

調査の結果、各試掘トレンチの上層の耕作土より下層は砂礫の河川堆積物であり、層序はおおむね同じ傾向であり、遺構、遺物は検出されなかった。このことから、整備事業の範囲には埋蔵文化財が存在しないとの報告をおこなった。



第1図 位置図



第2図 トレンチ配置図



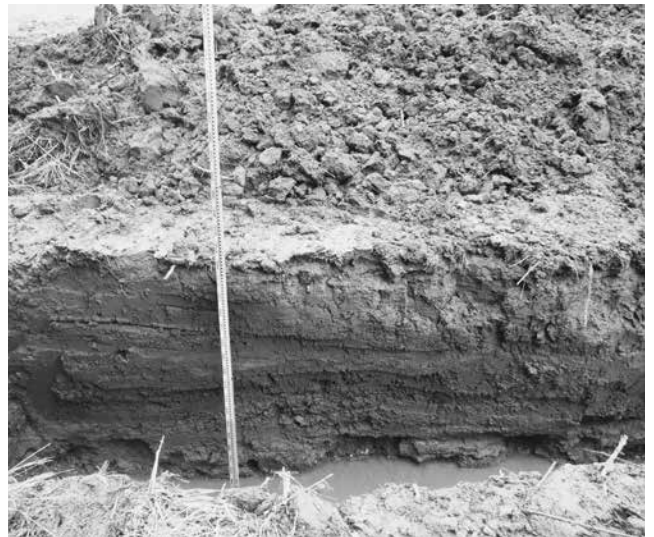
調査地点遠景



掘削状況



北トレンチ断面



南トレンチ断面

7 富士吉田警察署富士山駅前交番建設機械設備工事事業 試掘《包蔵地外》

所在地	富士吉田市上吉田二丁目 1343-5	調査期間	平成 30 年 10 月 2 日 (火)
担当者	熊谷晋祐	調査面積	約 12 m ² (対象面積 34.5 m ²)

調査経緯

富士吉田市上吉田二丁目 1343-5 の試掘調査は、山梨県警察本部による富士吉田警察署富士山駅前交番建設工事事業に先立ち実施したものである。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、周辺地における調査履歴がなく、埋蔵文化財包蔵地の空白地帯であるため調査を実施することとなった。

平成 30 年 9 月 6 日に、施工を担当する県土整備部営繕課（県警察本部会計課）、教育庁学術文化財課、県埋蔵文化財センターの三者で協議を実施し、試掘調査時における課題点等を確認した。

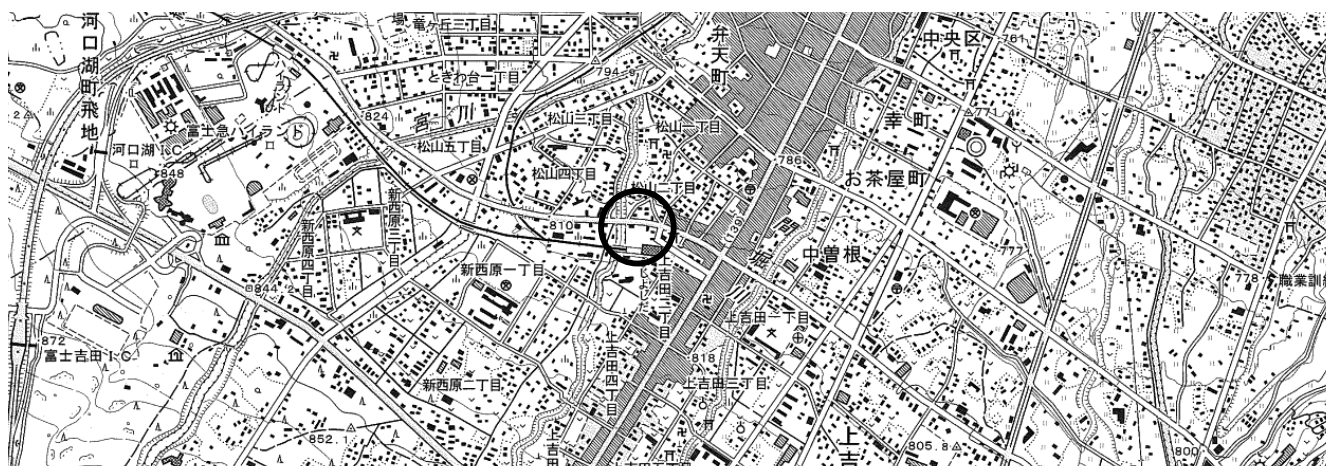
試掘調査は、平成 30 年 9 月 20 日付教学文第 1958 号で学術文化財課から試掘依頼を受け、平成 30 年 10 月 2 日に実施した。

事業内容と結果

調査地点は埋蔵文化財の包蔵地外だが、周辺での調査履歴が少なく、地中の状況はほとんど不明である。ただし周辺には吉田・上吉田の中近世門前町があり、調査地点目前を通る国道 137 号は、「御坂みち」として当時より利用されていた可能性がある。

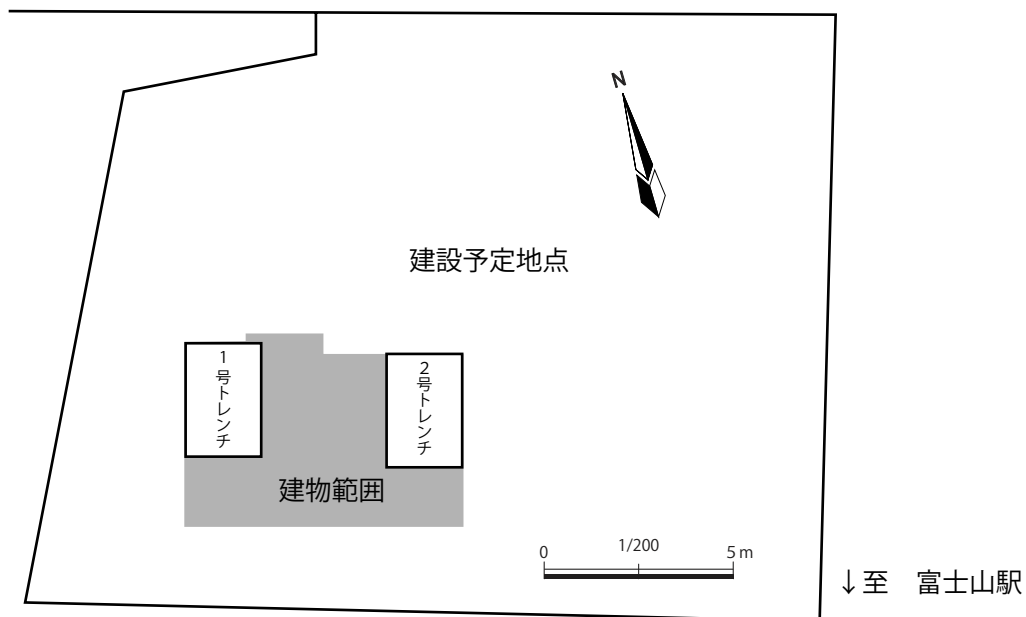
試掘調査では、調査の対象となる建築物の範囲に 2 本のトレンチを設定した。いずれのトレンチも状況は同様である。地表面より 0.7m 程度の厚さで碎石等の盛り土を確認した後、近現代の遺物を包含する盛り土層が 0.4～0.5m ほどの厚さで確認できた（1 層）。1 層から磁器碗の破片とともにガラス破片や金属片（釘・ビスなど）が出土したが、いずれも明治期以前に遡るものではないと判断した。続いて 2 層は褐灰色の砂質シルト層で、層厚は 10cm 程度となる。このシルト層より炭化物・クルミの殻が検出されたが、遺構・遺物は見つからず、自然堆積層と思われる。以下、3 層（明黄褐色礫混じり砂質シルト層：7cm 程度）、4 層（赤褐色礫混じり砂層）と続くが、施工対象となる深さ 2m までの確認にとどめた。

今回の試掘トレンチからは、遺構は検出されず、遺物の出土も皆無であり、3 層や 4 層の砂礫層も、富士山の土石流に由来すると想定される。よって、当該調査地点において、工事を進めても差し支えないとの報告をしたが、試掘調査地点は吉田・上吉田の門前町（居住域）に近接しており、いわゆる「御坂みち」の街道沿いにも居住域が展開していた可能性は十分に考えられる。今後も周辺では試掘調査による埋蔵文化財の有無の確認が必要である。

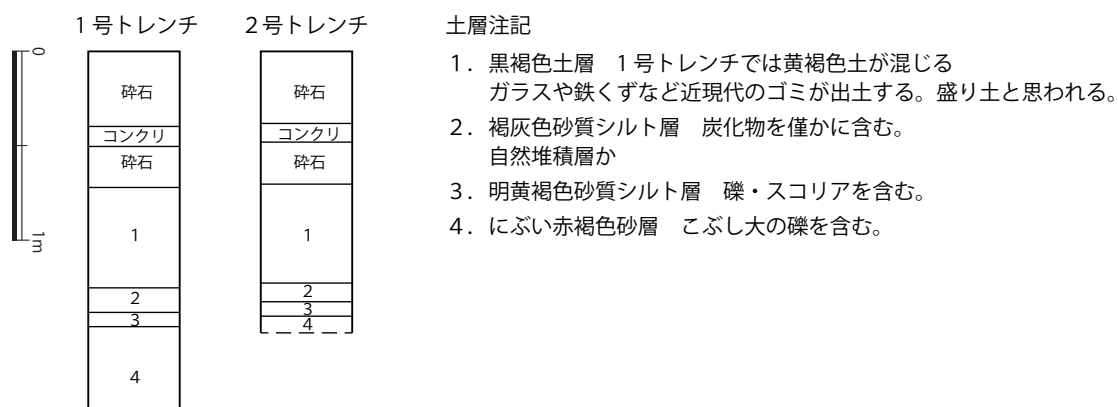


第 1 図 位置図

国道 137 号



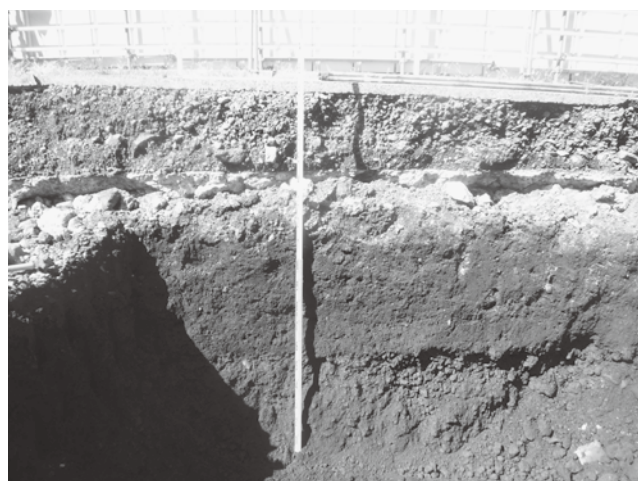
調査範囲全体図（工事設計図面をトレース）



第2図 トレンチ配置図および土層柱状図



調査地点



8号トレンチ

8 北杜警察署上手・朝神駐在所（仮称）建設工事業 試掘《包蔵地外》

所在地	山梨県北杜市明野町上手 5631-1	調査期間	平成 30 年 10 月 17 日（水）
担当者	宮里学・飯塚剛	調査面積	5 m ² （施工対象面積 99 m ² ）

調査経緯

北杜市明野町上手 5631-1 地内の試掘調査は、山梨県警察本部による北杜警察署上手・朝神駐在所（仮称）建設工事に先立ち実施したものである。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、周辺は遺跡が高密度に分布する範囲の中での空白地帯にあたることや過去の調査履歴が少ないことから試掘調査を実施することとなった。

試掘調査の実施にあたり、平成 30 年 9 月 6 日に県土整備部営繕課（県警察本部会計課）、教育庁学術文化財課、県埋蔵文化財センターの三者で協議を実施し、試掘調査時における課題点等を確認した。

試掘調査は、平成 30 年 10 月 5 日付教学文第 2421 号で学術文化財課から試掘依頼を受け、平成 30 年 10 月 17 日に実施した。

事業内容と結果

調査地点は釜無川と塩川が合流する左岸の段丘堆積地に位置し、段丘は塩川に向かい緩やかに西傾斜する。この地点は、茅ヶ岳を起源とする火山麓扇状地堆積地も交差する地形でもある。

周辺の埋蔵文化財包蔵地には、屋敷添Ⅱ遺跡、村之内遺跡、平林南遺跡など過去に発掘調査された遺跡があるものの、当該地の半径 500m は埋蔵文化財包蔵地が確認されていないため、丹念に水平掘削を行い埋蔵文化財の有無の確認に努めた。

試掘調査では、工事掘削対象である建築物の範囲に東西方向 1 本のトレンチを設定し、重機による掘削をおこなった。また、10 数メートル離れた同一敷地内で既存擁壁の撤去作業も実施しており、併せて堆積状況を確認することができた。

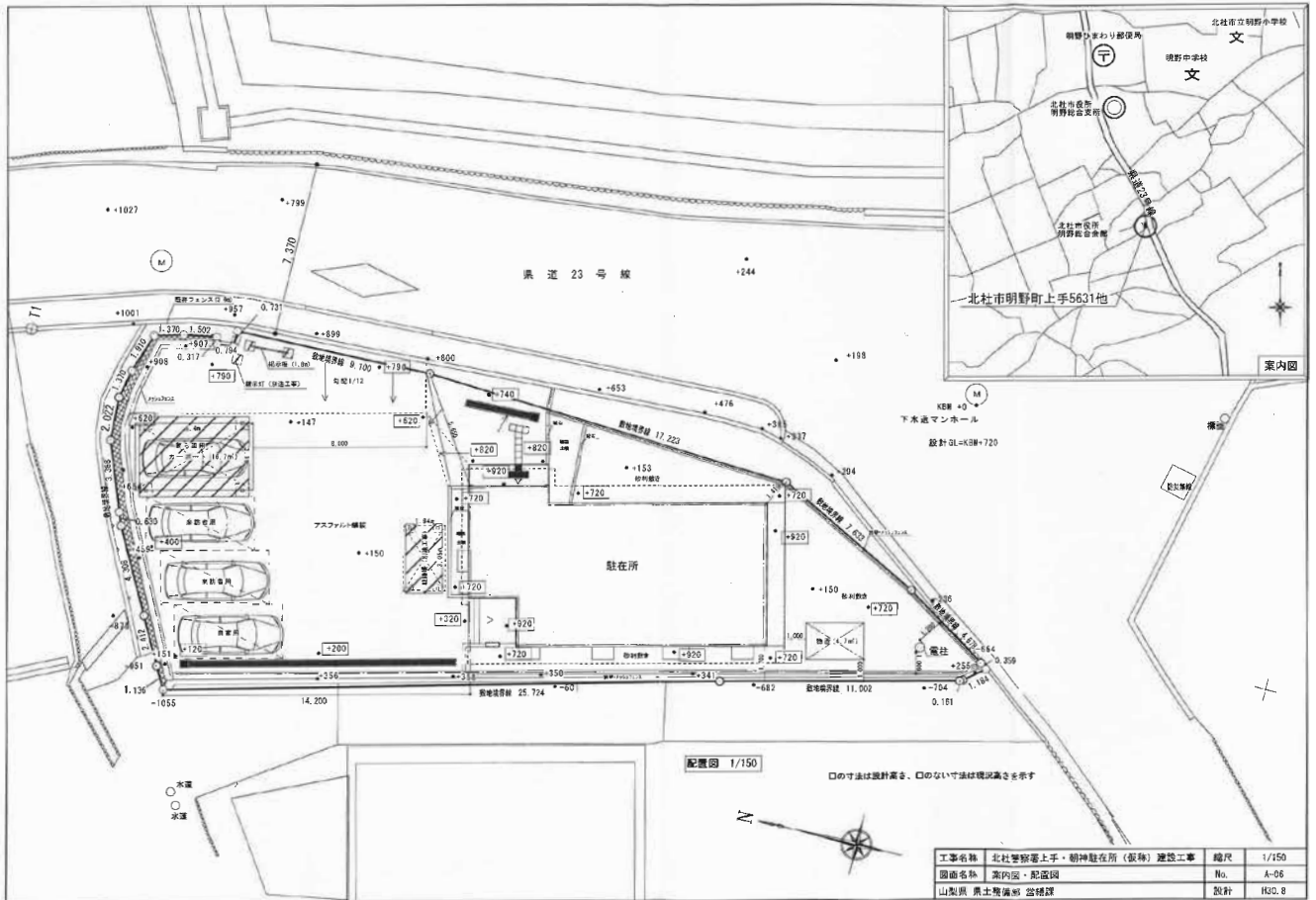
現況 GL-0.3m が現地表面と耕作土であり、その下層は黒ボク土に風化した様態の褐色ローム土や砂礫土が混在する堆積であった。一見、二次堆積土としても捉えられるが、段丘堆積層と火山麓扇状地が交差する地形的特徴があるため、判断は難しい。

掘削深度 GL-1.3m まで試掘トレンチを調査したところ人頭大の礫層に到達した。礫層は、既存擁壁撤去作業でも検出されていることから、安定した基盤層と判断し、掘削作業を完了した。

試掘調査の結果、遺構、遺物は検出されなかった。また、周辺工事での土層断面の観察結果や建築工事の掘削深度（基礎部）を勘案して、埋蔵文化財に対する影響はないと報告した。



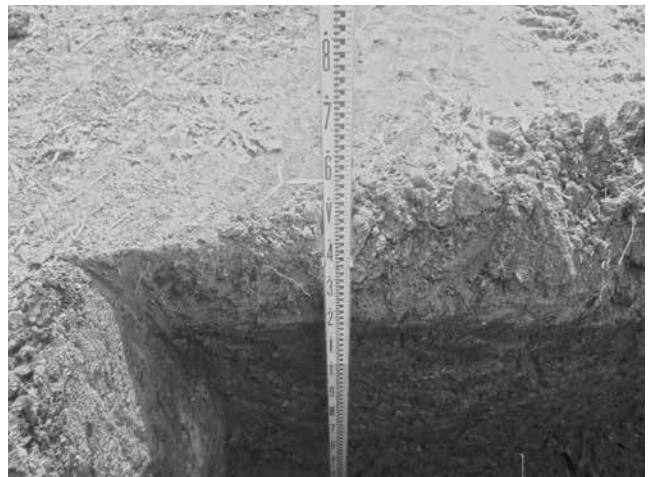
第 1 図 位置図



第2図 トレンチ配置図



調査地点遠景



土層状況

9 天竜南線リニア増強工事事業（1期） 試掘《石橋条里制遺構》

所在地	笛吹市境川町三柵字八講田 193-1	調査期間	平成 30 年 11 月 26 日（月）
担当者	宮里学・高左右裕	調査面積	約 9 m ² （調査対象面積約 74 m ² ）

調査経緯

笛吹市境川町三柵字八講田 193-1 地内における試掘調査は、天竜南線リニア増強工事事業（1期）に先立ち実施した。

当該地は、周知の埋蔵包蔵地内であるが、周辺の詳細な文化財調査成果が少ないことやより広い範囲を見渡した時に埋蔵文化財包蔵地の展開を理解するため実施することとなった。

試掘調査を実施するにあたり、平成 30 年 10 月 19 日に、事業者である東京電力株式会社、教育庁学術文化財課、県埋蔵文化財センターと現地協議をおこない、調査による土地利用の注意点などを確認し、同 11 月 26 日に試掘調査を実施した。

事業内容と結果

調査地点は境川右岸の扇状地上に存在しており、埋蔵文化財包蔵地である石橋条里制遺構に位置している。

試掘調査では、鉄塔建設位置にあたる地点に長さ 8m×2m のトレンチを 3 本設定した。掘削調査は重機を使い、GL-2.9m まで掘削した。GL-1.1m までは攪乱層であり、GL-1.8m までは砂礫層や植物遺体を含むグライ土壌であり、以下は砂礫層であった。

今回の鉄塔建設位置に設定した試掘トレンチからは、遺構、遺物は検出されなかった。また、試掘トレンチの堆積状況から少なくとも計画地の範囲は、工事を進めても埋蔵文化財に影響はないと判断し、報告した。なお、調査地点周辺を踏査し、摩滅が激しいものの土器片を表採しているため、今後も周辺では埋蔵文化財に対する注意が必要である。



第 1 図 位置図

10 都市公園舞鶴城公園内屋根付ベンチ設置工事業

試掘《県指定史跡甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目5番地内	調査期間	平成30年11月14日(水)～16日(金)
担当者	正木季洋・柴田亮平・北澤宏明・塩谷風季	調査面積	約1㎡(調査対象面積約4㎡)

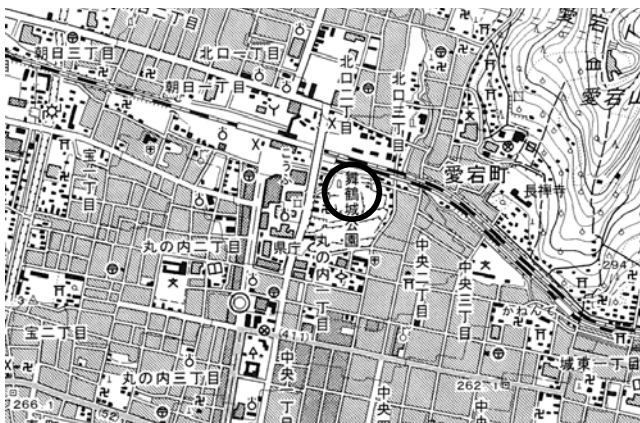
調査経緯

都市公園舞鶴城公園(県指定史跡甲府城跡)稲荷曲輪公衆用トイレ南側において、山梨県県土整備部による屋根付ベンチ設置工事が計画された。平成30年11月6日に県土整備部および教育庁学術文化財課、県埋蔵文化財センターによる現地協議を実施した。現地は過去に確認調査が実施されており、公園整備にあたり地下遺構の保護層が設けられているが、地下遺構までの深度等の詳細な情報が不足していることから、工事に先立ち、試掘調査を実施することとなった。

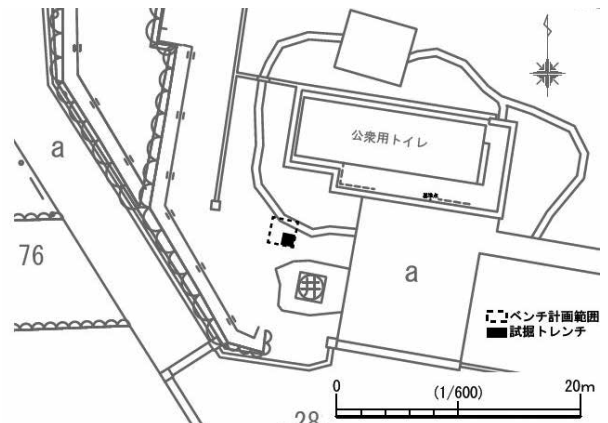
事業内容と結果

調査は、工事対象範囲4㎡のうち、最も標高が低い地点に約1m四方のトレンチを設定し、人力により掘削・精査し、土層の観察と遺構・遺物の有無を確認した。また、試掘調査による掘削深度は、屋根付ベンチ設置工事による地下掘削深度が最大0.2mに保護層0.3mを加えた0.5m以上とした。

調査の結果、地表下0.55mまで昭和期遺構の盛土層が堆積しており、屋根付ベンチ設置工事に對し地下遺構までの保護層が0.3m以上確保されることを確認し、現状に復した。



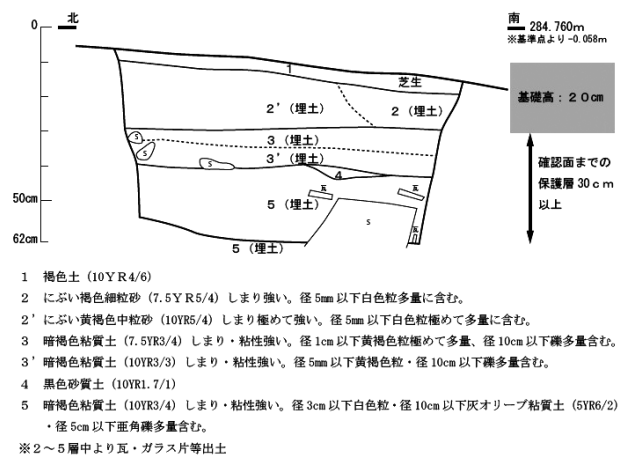
第1図 位置図



第2図 トレンチ配置図



東壁土層



第3図 土層図

11 中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事業 （都留市・笛吹市～富士川町） 試掘《包蔵地・外》

所在地	都留市、笛吹市、甲府市、中央市、南アルプス市、富士川町	調査期間	平成 30 年 7 月 25 日（水）～ 12 月 26 日（水）
担当者	宮里学、飯塚剛、高左右裕	調査面積	—

1. 事業の概要

平成 23 年 5 月 26 日、国土交通大臣が、全国新幹線鉄道整備法に基づき中央新幹線の整備計画を決定し、営業主体・建設主体に東海旅客鉄道株式会社（以下、JR 東海）を指名した。

中央新幹線（東京都・名古屋市間）は、東京都品川駅付近を起点に、本県甲府市、赤石山脈中南部（南アルプス）を経て愛知県名古屋市まで延長約 286km を超電導磁気浮上方式で走行する計画である。

路線延長約 286kmのうち、地上部は約 40km、トンネルは約 246kmであり、特に本県地上部は 27.1km（約 67 %）となっており、沿線都県自治体の中でも埋蔵文化財について特段の注意が必要な区間と言える。

このような背景を受け、山梨県教育委員会では、平成 26 年には JR 東海が国土交通大臣に送付する「中央新幹線環境影響評価書（山梨県）」の埋蔵文化財についての協議を、平成 27 年からは具体的な調査計画の検討や準備を進め、平成 30 年から本格的に埋蔵文化財の試掘調査を開始した。

※「山梨県内の構造種別（路線延長）と主要な施設」地上部 27.1km、トンネル 56.3km、駅 1 箇所、変電施設 3 箇所、保守基地 3 箇所
【山梨県リニア用地事務所 HP（JR 東海資料「環境評価書（山梨県）のあらまし」）より】

2. 調査等の方法

県埋蔵文化財センターでは平成 30 年 7 月 17 日付教学文第 1329 号および同年 9 月 11 日の教育庁学術文化財課との協議を契機に、同年 10 月より試掘調査を本格的に開始した。

試掘調査に先立つ検討で、地上部 27.1km（約 1,300 筆）を対象に周知の埋蔵文化財包蔵地の面積を算出したところ 87,320 m²となり、あわせて該当市町教育委員会へのヒアリング、分布調査報告書、近世資料（村絵図）等による想定を含めれば 154,500 m²の範囲で埋蔵文化財が検出される可能性があると予測した。

このように、中央新幹線で相当の面積の埋蔵文化財包蔵地等に影響が生じる可能性があることから、JR 東海、学術文化財課との協議を継続し、次の調査方針を定めた。

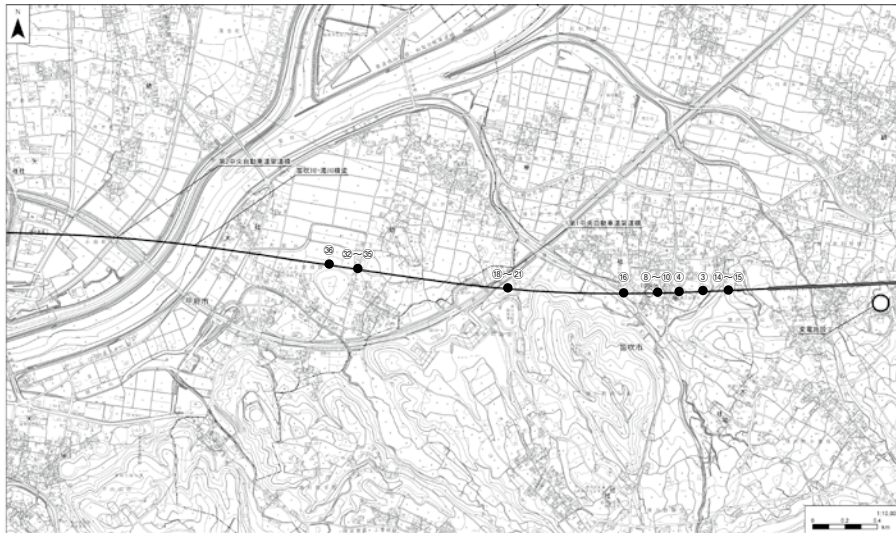
- ・埋蔵文化財調査は、関係者間の協議により優先順位を付け、試掘調査を平成 32 年度末までに計画的に実施する。なお、県教育委員会は埋蔵文化財包蔵地、JR 東海は早期着工区間を最優先とする。
- ・埋蔵文化財調査は、用地取得後に実施することが望ましいが、JR 東海が取得する同意書をもって実施する。
- ・埋蔵文化財センターでは、円滑な調査と埋蔵文化財保護行政を確実に推進し、個人情報管理、地権者や住民に配慮した業務を推進し、中央新幹線建設事業に協力する。
- ・JR 東海とは毎月の定例協議（第 1 水曜日）を開催するほか、日常的な連携を図り、スピード感と確実な業務の推進を双方協力のもと維持する。

3. 本年度のまとめ

本県の中央新幹線地上部は郡内地方の都留市と国中地方の笛吹市、甲府市、中央市、南アルプス市、富士川町の五市一町が該当する。本年は、12 月末までに笛吹市 11 筆、甲府市 5 筆、中央市 14 筆、富士川町 33 筆の合計 83 筆で試掘調査を実施し、11 筆で遺物、遺構の検出をした（別表 1 参照）。これらの成果を踏まえ、当面は、試掘調査を早期に完了させるが、発掘調査についても順次計画し実施していく予定である。

また、従来から指摘もあるが、甲府盆地という地形的特質上、甲府市西部から中央市、南アルプス市は釜無川の氾濫原であったり、富士川町東部は利根川や戸川などの扇状地であったりと、相当厚い砂礫堆積や出水に悩まされ、引き続き調査が難航する見込みである。笛吹市から甲府市東部にかけても、本県有数の埋蔵文化財包蔵地が密集している丘陵、台地等であることが判明しており、すでに多くの筆で遺構、遺物が検出されていることから全地上部で遺漏なく迅速に調査を進めていく必要が指摘できる。

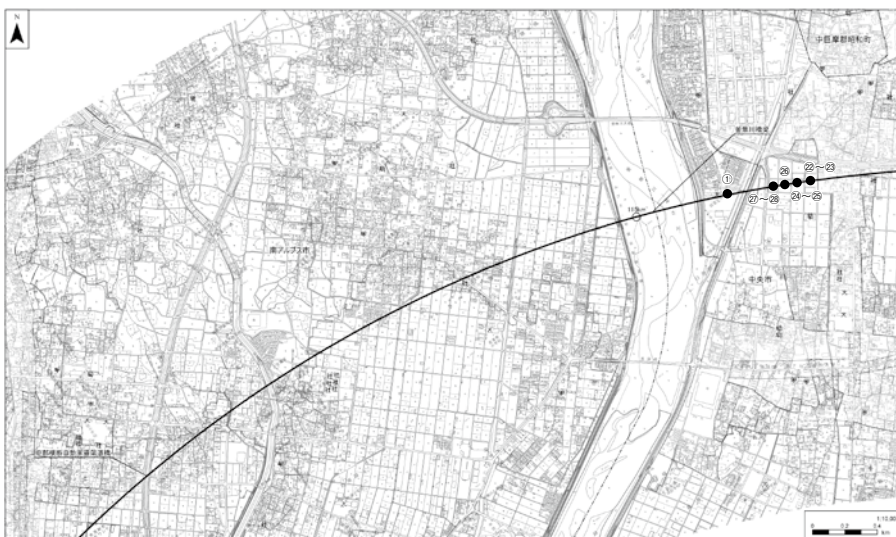
全体位置図（甲府盆地内の主要路線部）



笛吹市付近



甲府市付近



中央市付近



南アルプス市付近



富士川町付近

出典：中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書 環境影響評価関連図【山梨県】（平成 25 年 9 月）（東海旅客鉄道株式会社）より色データを削除して載せてあります。

表1 中央新幹線試掘調査一覧

No.	調査概要							調査情報					備考	
	調査地点	調査日	包蔵地区分	調査対象面積 (㎡)	試掘調査面積 (㎡)	調査率 (%)	地形	最大深度 (m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度 (m)	時代		出水深度
1	中央市臼井阿原	7月24日～25日	包蔵地	1400	128	9.1%	河川扇状地氾濫原	4.0	無	無	—	—	有	・盛土が厚く、最下層は砂礫であり、出水が激しい。
2	都留市小形山	8月20日～31日	包蔵地	11147.09	558	5.0%	丘陵河川扇状地	4.5	有	有	GL- 0.4m	縄文～平安	無	・現在、住宅が建つ場所も包蔵地内である可能性がある。 ・地図非掲載
3	笛吹市境川町石橋	10月10日～11日	包蔵地	623	30.8	4.9%	河川扇状地氾濫原	1.4	有	有	GL- 0.3m	古墳	無	・古墳時代前期の集落跡と推定 ・範囲確定のため周辺を継続調査
4	笛吹市境川町石橋	10月12日	包蔵地	120	5	4.2%	河川扇状地氾濫原	1.2	無	無	—	—	無	周辺調査を継続し、調査不要を確定させる
5	富士川町小林	10月15日	包蔵地外	55.55	4	7.2%	河川扇状地氾濫原	2.0	無	無	—	—	有	周辺調査を継続し、調査不要を確定させる
6	富士川町小林	10月15日	包蔵地外	191.5	4	2.1%	河川扇状地氾濫原	2.2	無	無	—	—	無	周辺調査を継続し、調査不要を確定させる
7	富士川町天神中條	10月15日	包蔵地外	58.13	4	6.9%	造成台地	2.5	無	無	—	—	無	周辺調査を継続し、調査不要を確定させる
8	笛吹市境川町石橋	10月24日～25日	包蔵地	440	24	5.5%	河川扇状地氾濫原	0.7	無	有	GL- 0.3 m	古墳近世	無	・未調査だが、隣接地が本調査対象のため
9	笛吹市境川町石橋	10月24日～26日	包蔵地	440	24	5.5%	河川扇状地氾濫原	0.3	有	有	GL- 0.3 m	古墳近世	無	・古墳時代前期の集落跡と推定 ・奈良平安時代の可能性もあり。
10	笛吹市境川町石橋	10月24日～26日	包蔵地	485	18	3.7%	河川扇状地氾濫原	0.5	有	有	GL- 0.5 m	古墳近世	無	・古墳時代後期の古墳と判断 ・遺物多量出土 ・調査範囲について協議が必要
11	中央市上三條	10月23日	包蔵地外	869	40	4.6%	河川氾濫原	3.0	無	無	—	—	有	周辺調査を継続し、調査不要を確定させる
12	富士川町天神中條	10月29日	包蔵地外	300	15	5.0%	丘陵扇状地	3.5	無	無	—	—	無	周辺調査を継続し、調査不要を確定させる
13	富士川町最勝寺	10月30日	包蔵地外	102	5	4.9%	造成台地扇状地	4.5	無	無	—	—	無	周辺調査を継続し、調査不要を確定させる
14	笛吹市境川町小山	11月1日	包蔵地	40	7	17.5%	丘陵	1.4	有	無	GL- 0.3 m	古墳	無	土坑検出
15	笛吹市境川町小山	11月1日	包蔵地	90	3	3.3%	丘陵	1.0	有	無	—	古墳	無	
16	笛吹市境川町石橋、三柵	11月15日	包蔵地	600	30	5.0%	河川扇状地氾濫原	3.0	無	無	—	—	無	
17	中央市下河東	11月16日	包蔵地外	238	12	5.0%	氾濫原	3.5	有	無	GL- 2.0 m	時期不明	有	・当該地は平田宮遺跡の東300mであり、調査実績と同じくGL-2.0mで床土壌の安定層を検出 ・遺物、畦畔等の遺構は検出されなかったため、周辺地を継続と判断
18	笛吹市境川町藤壘	11月28日	包蔵地外	110	12	10.9%	造成丘陵	3.4	無	無	—	—	有	
19	笛吹市境川町藤壘	11月27日～28日	包蔵地外	1497	34	2.3%	丘陵	4.1	無	無	—	—	有	
20	笛吹市境川町藤壘	11月27日	包蔵地外	40	24	60.0%	造成丘陵	2.9	無	無	—	—	有	

21	笛吹市 境川町藤壺	11月27日	包蔵地外	700	38.2	5.5%	造成 丘陵	0.6	無	無	—	—	有	
22	中央市 布施	12月4日	包蔵地外	2000	54	2.7%	河川 扇状地 氾濫原	1.5	無	無	—	—	有	・下層の砂層は崩れやすく深く掘れず。 ・出水が激しいが埋設管がないため、水脈と判断。
23	中央市 布施	12月4日	包蔵地	2000	60	3.0%	河川 扇状地 氾濫原	1.5	有	無	—	—	有	・上記と同様
24	中央市 布施	12月3日	包蔵地	700	16	2.3%	河川 扇状地 氾濫原	1.4	有	無	—	—	有	・上記と同様
25	中央市 布施、 臼井阿原上阿原	12月3日	包蔵地外	1200	6	0.5%	河川 扇状地 氾濫原	1.4	無	無	—	—	有	・下層の砂層は崩れやすく深く掘れず。 ・出水が激しいが埋設管がないため、水脈と判断。
26	中央市 臼井阿原上阿原	12月3日	包蔵地外	25	6	24.0%	扇状地 氾濫原	2.4	無	無	—	—	有	・上記と同様
27	中央市 臼井阿原上阿原	12月3日	包蔵地外	480	6	1.3%	河川 扇状地 氾濫原	3.4	有	無	—	—	有	・上記と同様
28	中央市 臼井阿原上阿原	12月3日	包蔵地外	275	6	2.2%	河川 扇状地 氾濫原	4.4	無	無	—	—	有	・上記と同様
29	富士川町 高下地内	12月13日～17日	包蔵地外	—	94	—	丘陵	2.3	無	無	—	—	無	・地図非掲載
30	中央市 下河東	12月17日	包蔵地	300	20	6.7%	造成 河川 扇状地 氾濫原	3.6	有	無	GL- 3.6m	時代 不明	有	・平田宮遺跡と同一の包含層を確認し、水田跡を確認したため本調査対象。
31	中央市 下河東	12月17日	包蔵地	286	10	3.5%	造成 河川 扇状地 氾濫原	2.1	有	無	GL- 1.5m	時代 不明	有	・上記と同様
32	甲府市 上曾根町	12月26日	包蔵地外	58.67	6	10.2%	扇状地	1.3	無	無	—	—	無	・古道あり
33	甲府市 上曾根町	12月26日	包蔵地	31	5	16.1%	扇状地	1.3	無	無	—	—	有	・古道あり
34	甲府市 上曾根町	12月26日	包蔵地外	291.84	10	3.4%	河川 扇状地	1.7	無	無	—	—	有	
35	甲府市 上曾根町	12月26日	包蔵地外	209.54	10	4.8%	河川 扇状地	1.7	無	無	—	—	有	
36	甲府市 上曾根町	12月26日	包蔵地	35	10	28.6%	扇状地	1.5	有	無	GL- 1.4m	中世	無	・勝山城の堀跡と思われる土層を検出



重機による掘削（表1③）



重機の搬入



重機の搬入



道路の清掃



中央市試掘地点の埋戻し（表1⑰）



重機による掘削（表1①）



重機による掘削（表1⑬）



重機による掘削（表1⑳）



笛吹市試掘地点 (表 1 ⑭)



笛吹市試掘地点 (表 1 ⑯)



甲府市試掘地点 (表 1 ⑳)



出水によるトレンチの崩落 (表 1 ㉑)



甲府市試掘地点 (表 1 ㉒)



中央市試掘地点 (表 1 ㉓)



中央市試掘地点 (表 1 ㉔)



笛吹市出土遺構 (表 1 ㉕)



中央市試掘地点 (表 1 ③)



福岡市試掘地点 (表 1 ⑱)



激しい出水が見られたトレンチ (表 1 ㉔)



福岡市試掘地点 (表 1 ㉒)



甲府市試掘地点 (表 1 ㉞)



富士川町試掘地点 (表 1 ㉟)



富士川町試掘地点 (表 1 ⑤)



富士川町試掘地点 (表 1 ㉑)



富士川町試掘地点 (表 1 ㉔)



笛吹市試掘地点 (表 1 ⑩)



富士川町試掘地点 (表 1 ㉔)



調査のための草刈り状況



高坏脚部 (笛吹市出土)



縄文土器 (都留市出土)



須恵器 (笛吹市出土)



笛吹市出土遺物

12 都留興讓館旧弓道場解体工事業 立会《三ノ側遺跡》

所在地	山梨県都留市上谷 5-7-1 (都留興讓館高校)	調査期間	平成 30 年 1 月 26 日 (金)
担当者	吉岡弘樹・高左右裕	調査面積	約 30 m ² (調査対象面積 468 m ²)

調査経緯

山梨県都留市上谷 5-7-1 (都留興讓館高校) の立会調査は、県立都留興讓館高校建設事業に伴い実施したものである。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ側遺跡に含まれている。

平成 29 年 6 月 6 日 (火)、事業者である県土整備部営繕課、県教育庁学校施設課、同学術文化財課、県埋蔵文化財センター及び施工業者で事前協議をおこなった。

協議では、平成 27 年度以降の未発掘調査範囲の確認のほか、本年の予定としてグラウンド周辺の立会地点等、全体計画を確認した。

平成 30 年 1 月 26 日、協議の結果を踏まえ、グラウンド北東脇にある旧弓道場の基礎撤去に伴う立会調査を実施した。

事業内容と結果

都留興讓館高校グラウンド北東脇にある旧弓道場の基礎の四方に立会調査として 6 ヶ所にトレンチを設定した。

第 1・2 トレンチでは 0.1m 程、表土層より高く基礎が設置されていた。GL-1.3m まで掘り下げを行った結果、表土層と碎石層下に第 1・2 層の埋め土層があり、第 3・4 層では赤色スコリアを含む安定した堆積が観察できた。なお、基礎は地下約 1.1m まで入れられており、全面と下部は碎石と埋め土で転圧されていた。

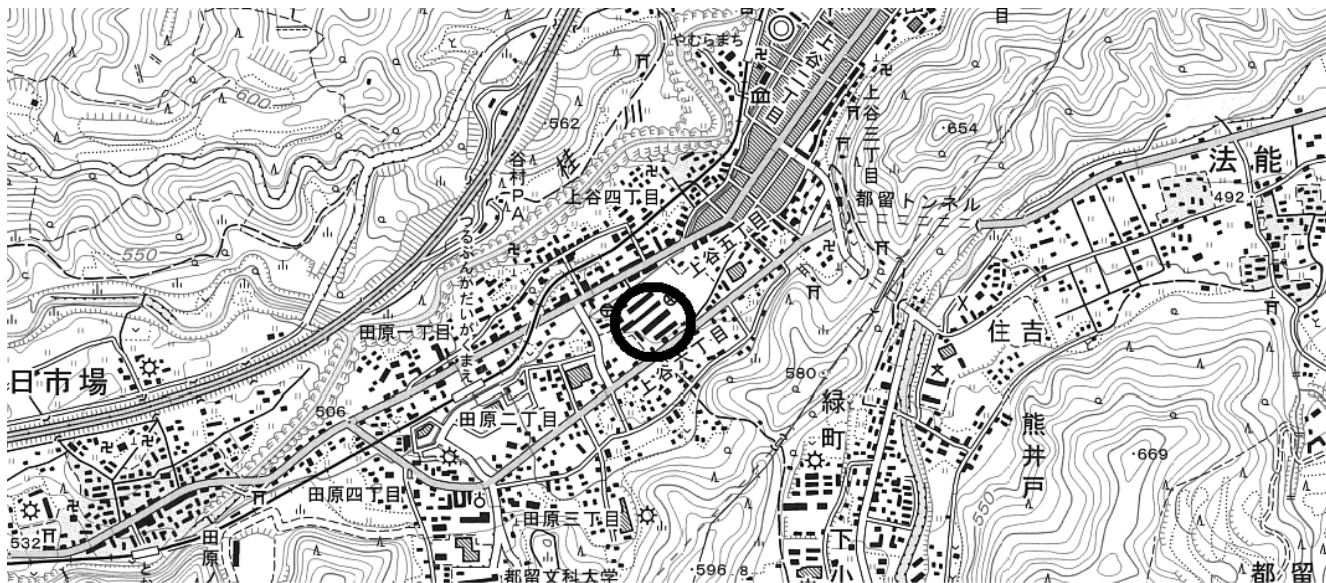
第 3 トレンチでは、GL-1.2m まで掘り下げをしたが、表土層の下は電気配線の埋設が行われており、攪乱+碎石層が見られた。また、一部分において安定した層序 (第 3・4 層) も確認できた。

第 4 トレンチは約 1m の深度で基礎コンクリート埋設されていた。約 0.1m の表土層とその下層の碎石層下の埋め土と推される淡茶褐色土層があり、さらにその下層に他のトレンチでも見られる赤色スコリアを含む安定した層序 (第 3・4 層) が確認された。

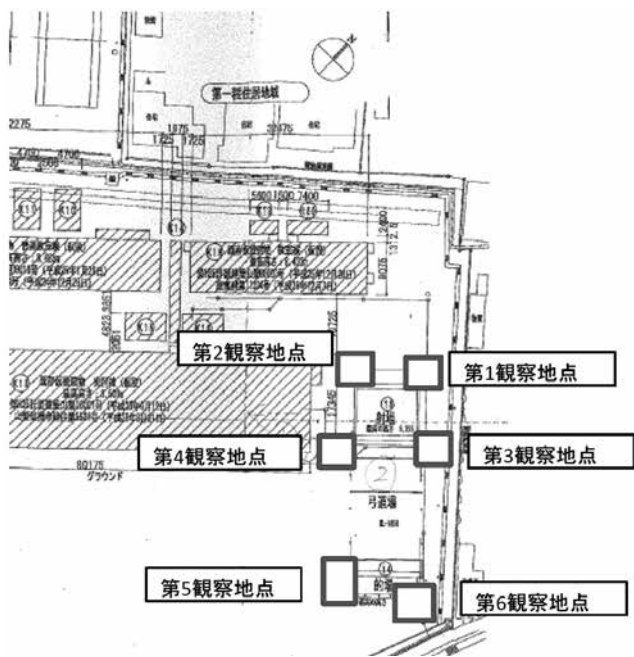
第 5・6 トレンチでは GL-1.3m まで掘削した。表土層の下に 2 種の転圧された埋め土や碎石層がみられ、その下層には他のトレンチと同様に赤色スコリアを少量混入する安定した層序などが検出された。

立会調査の結果、すべてのトレンチにおいて、遺構や遺物は検出されなかった。

今回の調査によって、旧弓道場の基礎の周囲は、グラウンドと同レベルの表土の下を掘削し、基礎を施工後に碎石と埋め土により転圧していることが判明した。施工時には外周に約 1m の深度までコンクリート基礎部を入れ、他所には約 0.2m の厚さで全面がコンクリート施行されていたことが確認できた。



第1図 位置図



第2図 立会調査位置図



立会調査状況



トレンチ断面

13 高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事事業 立会《狐原遺跡》

所在地	山梨県笛吹市石和町中川 1400	調査期間	平成 30 年 3 月 3 日 (土) ～ 8 月 2 日 (木)
担当者	吉岡弘樹・宮里学・飯塚剛・高左右裕	調査面積	約 1 m ² (調査対象面積 6.5 m ²)

調査経緯

山梨県笛吹市石和町中川 1400 の立会調査は、高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事事業に伴い実施した。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡に含まれている。

昨年度は、平成 29 年 11 月 8 日～9 日に試掘調査を実施し、その結果を受けて、平成 30 年 2 月 5 日から 27 日に、浄化槽部分の発掘調査を行い、平安時代の遺構・遺物を検出している。浄化槽工事に加え、体育館周囲における消火管の埋設も行われ、この埋設工事の立会調査を行った。

事業内容と結果

立会調査は、事業者の掘削計画に合わせてすべて実施し、遺構確認、写真記録等をおこなった。

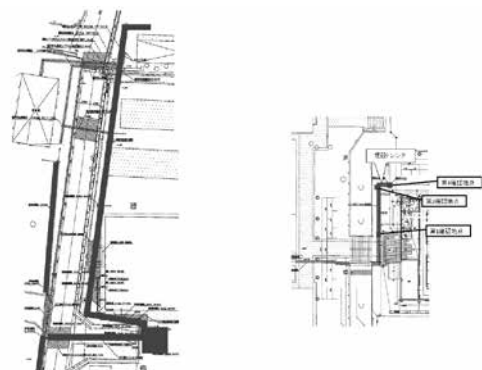
掘削は全長約 55m、幅約 0.5m、深さ約 0.9m を測り、全長は長いものの掘削幅が狭いため、立会調査のみの実施となった。

立会調査の結果、わずかに平安時代の甲斐型土器の小片を確認したが、遺構は検出されなかった。これは、学校建設の際に 2m 以上の盛土や各種配管工事なども施工されていることから原位置を保っておらず、また、狐原遺跡の発掘調査で確認された包含層や遺構面にも達しないことが判明した。

このことから、本事業における狐原遺跡への影響はないものと判断し、事業を遅延させることなく立会調査を完了し、その旨を報告した。



第 1 図 位置図



浄化槽配管工事トレンチ配置図 消火管埋設工事トレンチ配置図

第 2 図 トレンチ配置図



消火管埋設工事立会調査状況



排水管埋設工事トレンチ断面

14 甲府道路維持工事業 立会《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市丸の内二丁目	調査期間	平成30年11月29日(木) 夜間
担当者	宮里学・熊谷晋祐	調査面積	約5㎡(調査対象面積約5㎡)

調査経緯

甲府市丸の内二丁目地内における立会調査は、国土交通省の実施する甲府道路維持工事に伴い、実施したものである。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の南西端に位置する。また、南口修景事業にかかる立会調査で、既存水路下には石組による旧水路を確認し、埋設保存(平成30年8月22日、9月11日)している実績もあるため、引き続き立会調査を実施した。

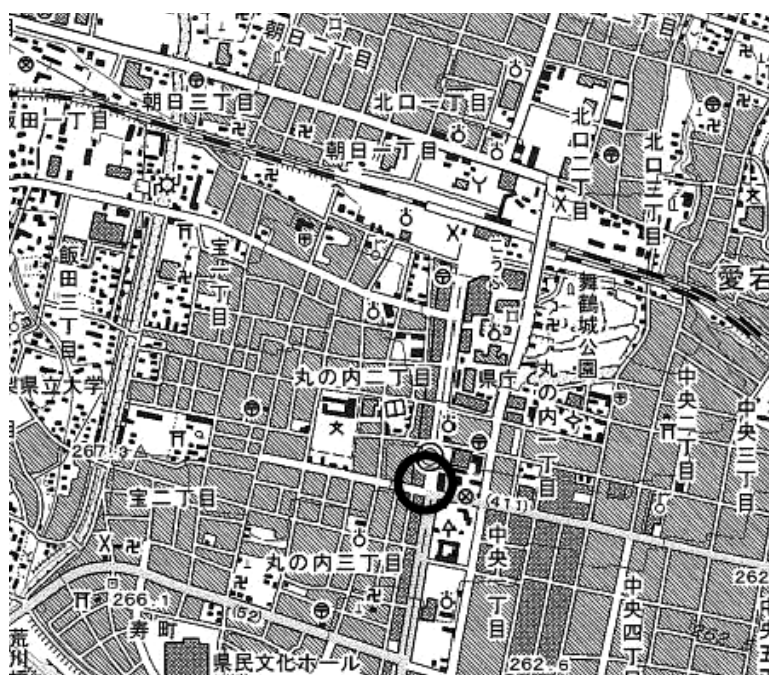
工事は、既存の水路(推定ボックスカルバート)を撤去し、碎石等により空隙を埋める工法である。

立会調査の協議は平成30年11月28日に実施し、翌29日に立会調査を実施した。

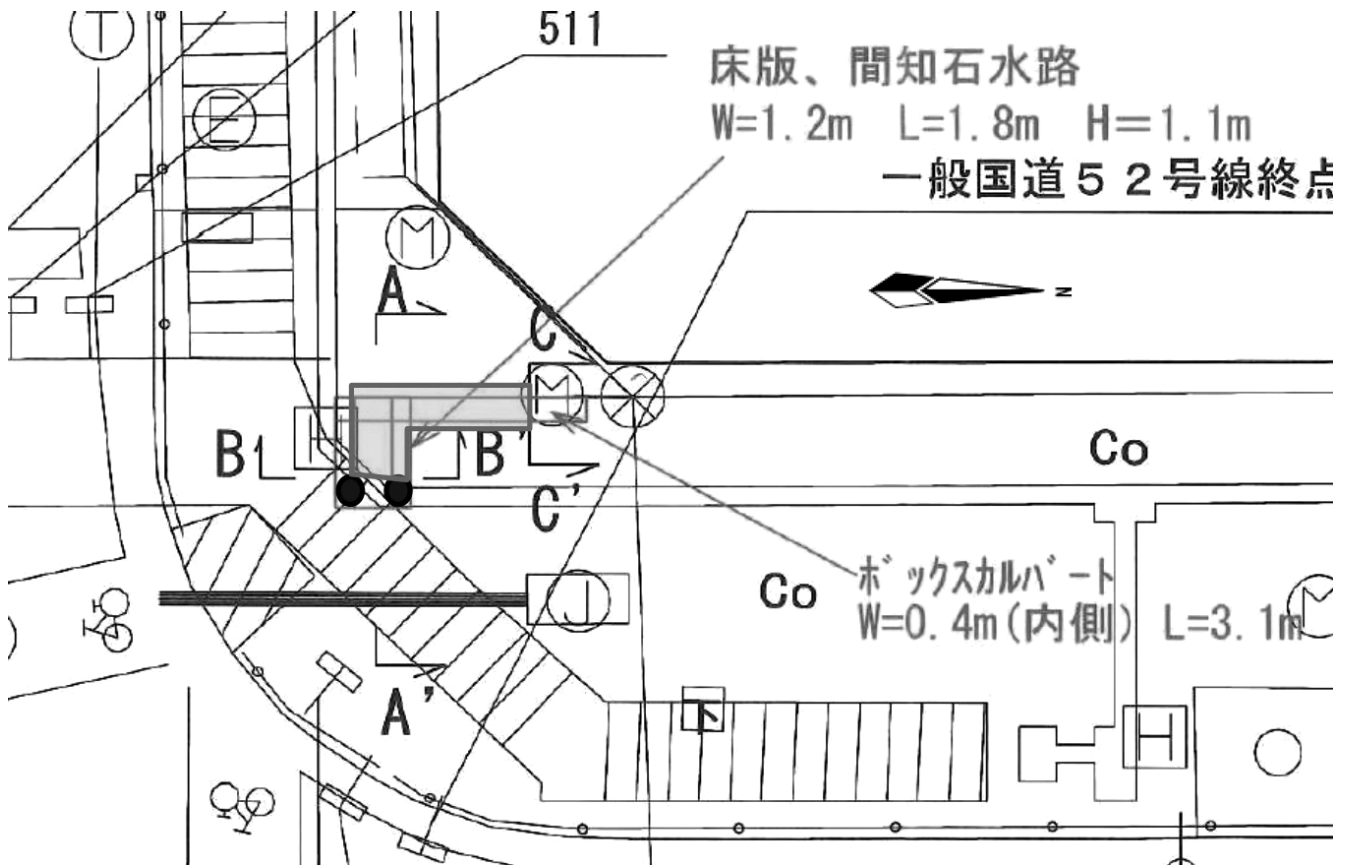
事業内容と結果

既存の水路はボックスカルバートではなく、現地施工のコンクリート構造で、調査地点を南北方向から東西方向へ直角にクランクしていた。事前に見つかっている石組水路は、東西軸方向で調査範囲の東端において一部検出された。クランクする付近では石組水路内部にモルタルが塗られており、南北軸にはコンクリートの旧水路のみで石組水路は確認されなかった。工事では南北軸のコンクリート水路全体と、東西軸のコンクリート溝蓋を撤去し、石組水路が伴う部分は埋設保存の措置をとり、施工を完了した。

南北軸のコンクリート水路の下部にはガス管路が通っているのを確認した。既存水路は、旧石組水路を改修する形で、コンクリートやモルタルによって補修・整備を行ったと考えられ、その最終改修時期は、昭和前半からかいじ国体期までに行われたと想定される。しかし、旧石組水路自体は北方向へクランクせずになおも西方向へ延長していた可能性があること、石組水路に使用している石材によっては近世末頃まで時期が下る可能性もあることなどから、具体的な築造年代は今回の立会調査からでは確定することができなかった。今後も当該水路に関わる工事については埋蔵文化財の保護措置が必要である。



第1図 位置図



第2図 立会調査地点



調査地点



立会調査風景

15 国営施設機能保全事業に先立つ詳細分布調査事業《殿林遺跡・安道寺遺跡》

所在地	甲州市塩山上萩原・中萩原・下粟生野地内	調査期間	平成30年1月9日～3月23日 平成30年6月27日～10月25日
担当者	柴田亮平・御山亮済・熊谷晋祐 北澤宏明・岩永祐貴	調査面積	殿林遺跡：約55,000㎡ 安道寺遺跡：約70,000㎡

調査経緯

平成26年度より実施している甲州市殿林遺跡・安道寺遺跡周辺の詳細分布調査事業は、農林水産省関東農政局西関東土地改良調査管理事務所笛吹川沿岸支所が実施している笛吹川沿岸国営施設機能保全事業（平成24～33年度）に先立ち、埋蔵文化財の破壊を未然に防ぐため、両遺跡の埋蔵文化財の遺存状況の把握等をしていくものである。

事業内容と結果

平成30年1月～10月の事業内容は、現地における聞き取り調査の実施、平成27年度の調査で出土・採集した縄文時代の遺物の権利放棄の手続き作業、および整理作業である。聞き取り調査と遺物の権利放棄の手続きは、並行して行った。

聞き取り調査は、過去の畑の掘削等で遺物が出土しているかどうか、河川の氾濫・土地造成等の経緯、当該地の歴史について土地所有者に対して聞き取りを行い、遺跡の広がりや歴史的環境についての知見を得ることができた。権利放棄の手続きは、地権者に権利放棄承諾書に署名、捺印をしていただく形で進めた。聞き取り調査、権利放棄の手続きについては、本年度終了した。整理作業は、採集した縄文時代の遺物の実測・拓本などを行った。



第1図 位置図

報 告 書 抄 録

ふりがな	やまなしけんないぶんぶちょうさほうこくしょ
書名	山梨県内分布調査報告書（平成30年1月～12月）
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	324集
著者名	宮里学・飯塚剛・高左右裕
発行者	山梨県教育委員会
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016
発行年月日	2019年3月29日

	事業名・遺跡名	所在地	調査面積	調査対象面積	調査期間
1	新山梨環状道路北部区間建設事業 《包蔵地外》	甲斐市大久保字村東1135-1から 同市大久保字上ノ段988-4	約243.25㎡	3,166㎡	平成30年1月22日（月） ～2月2日（金）
2	中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事業（高下地区） 《包蔵地外》	白）南巨摩郡富士川町高下字久保田 至）同町高下字中屋	約191.3㎡	3,826.17㎡	平成30年2月5日（月） ～20日（火）
3	新山梨環状道路東部区間建設事業 《包蔵地外》	山梨県甲府市小曲町地内	約1,632.52㎡	約29,654.51㎡	平成30年3月2日（金） ～27日（火）
4	高速自動車国道中部横断自動車道新設工事業 《包蔵地外》	山梨県南巨摩郡南部町 福士字矢島地内	約83㎡	1,533.35㎡	平成30年5月8日（火） ～10日（木）、17日（木）
5	県庁舎北別館受水槽改修工事業 《甲府城跡》	山梨県甲府市丸の内一丁目6番	約16㎡	32.5㎡	平成30年6月4日（月）
6	統合一級河川事業 古川バイパス河川整備工事業 《包蔵地外》	山梨県韮崎市大草町若尾地区内	約109㎡	2,220㎡	平成30年6月13日（水） ～15日（金）
7	富士吉田警察署富士山駅前交番建設機械設備工事業 《包蔵地外》	富士吉田市上吉田二丁目1343-5	約12㎡	34.5㎡	平成30年10月2日（火）
8	北杜警察署上手・朝神駐在所（仮称）建設工事業 《包蔵地外》	山梨県北杜市明野町上手5631-1	22.92㎡	458.35㎡	平成30年10月17日（水）
9	天竜南線リニア増強工事業（1期） 《石橋糸里制遺構》	笛吹市境川町三柵字八講田193-1	約9㎡	約74㎡	平成30年11月26日（月）
10	都市公園舞鶴城公園内屋根付ベンチ設置工事業 《県指定史跡甲府城跡》	甲府市丸の内一丁目5番地内	約1㎡	約4㎡	平成30年11月14日（水） ～16日（金）
11	中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設工事業（都留市・笛吹市・富士川町） 《包蔵地・外》	都留市・笛吹市～富士川町			平成30年10月10日（水） ～12月26日（水）
12	都留興譲館旧弓道場解体工事業 《三ノ側遺跡》	山梨県都留市上谷5-7-1 （都留興譲館高校）	約30㎡	468㎡	平成30年1月26日（金）
13	高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事業 《狐原遺跡》	山梨県笛吹市石和町中川1400	約1㎡	6.5㎡	平成30年3月3日（土）
14	甲府道路維持工事業 《甲府城下町遺跡》	甲府市丸の内二丁目	約5㎡	約5㎡	平成30年11月29日（木） 夜間
15	国営施設機能保全事業に先立つ詳細分布調査事業 《殿林遺跡・安道寺遺跡》	甲州市塩山上萩原・中萩原・下粟生 野地内	殿林遺跡 約55,000㎡	安藤寺遺跡 約70,000㎡	平成30年1月9日（火） ～3月23日（金） 平成30年6月27日（水） ～10月25日（木）

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第324集
山梨県内分布調査報告書（平成30年1月～12月）

印刷日 2019年3月25日
発行日 2019年3月29日
発行所 山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
TEL 055-266-3016
FAX 055-266-3882
E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp
印刷所 株式会社ヨネヤ
